

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



特 250

180

資料第五輯

横濱新市域に於ける

工場適地

横濱市産業部

特250
180

目次

●はしがき	一
●新横濱の生産背地はどこにある	二
●工場適地の廣さ	四
●立地條件	八
●道路條件	八
●動力入手條件	二
●水利狀況	四
●勞力供給條件	一六
●地價及地代	二一
●工場適地を求められる方々へ	二三





はしがき

横濱市の發展——即ち昨日の横濱から明日の横濱への移行は、單に市地域の膨脹や、市人口の増加と言つた様なもので計るべきではありません。何か市を特質づける又性格づける本質的發展で計らねばなりません。然らば横濱市の本質的發展は何かと言へば、嘗ての中繼貿易港から生産貿易港へと轉換した場合を言ふべきであります。

已に横濱市は「工業立市」を市是として近來急激にその發展を示して参りましたが、從來中繼貿易港であつたが爲に、その損な影響を直接に受ける様な問題が昨今尙喧しく論ぜられてゐます。もしも現在既に完全な生産貿易港として充分の發展をとげてゐたならば、その嘆をかこたずにすんだであります。

かくして工業立市の市是が愈々その重要性を高め來つた所以であり、その市是の強化確立には、工業立地に適する生産背地を求めざる事の緊急性が最前面に押出されて來た所以でもあります。

已に市是に基いて開發せられて來た舊市域の工業地帯は、今日未だ必ずしも飽和されたいと言へませんが（この點に關しては當産業部開發資料第二輯「横濱市内に工場適地を求めたい人々へ」を御参照下さい）近時喧しく論ぜられて來た國防的見地よりする國土計畫で採り上げられてゐる集積

工業地帯の分散と言ふ點から見ても、横濱市はその膨脹した新市域に生産背地（ヒンケイランド）を開發せしめねばなりません。

斯う言つた諸要因から、當市産業部商工課觀光係に置きましては「生産背地を新市域に求める爲に、新市域に介在する工場適地候補地を對象として採り上げ、その工業立地性調査を檢討致しました。以下に展開せしめますものは、昭和十六年三月四日、五日、六日、七日の四日間にわたり、實施されました新市域工場適地調査の結果を總括したものであります。

之により企業家諸彦へ、その工場立地上の参考資料たり得れば、その目的は達せられたものと言へませう。

尙本調査は、横濱市立横濱商業専門學校經濟研究所の所員教授、學生の協力により完成されました。

新横濱の生産背地はどの方面にあるか

横濱の新市域内の工業立地の可能性を有すると見られる地域は、次の如くでありませう。

横濱驛を要として、放射狀に出てゐる交通機關の沿線を眺める時、その一本一本の交通線に沿ふて工場適地たり得る地域が發見されるでありませう。（第一圖参照）即ち――

I、東横電鐵沿線に於ける

A、太尾——B、綱島の地域

II、省線横濱線沿線に於ける

C、小机——中山——D、長津田の地域

III、神中鐵道沿線に於ける

E、二俣川——二ツ橋——F、瀬谷の地域

IV、湘南電鐵沿線に於ける

G、富岡——H、金澤の地域

V、東海道線沿線に於ける

I、戸塚一帯の地域

右の諸地域内に多く介在してゐる空地なり、田畑地なりが果して工場を立地せしめ得る適地なりや、否やを現地踏査により検討したのが今回の調査であります。

以下に調査により得られた右諸地域の工場地としての適性―工場立地性を展開させて見ませう。

〔注意〕 中山町の工場立地性については、當産業部「開發資料第三輯」『横濱新市域に於ける工場適地中山町附近』を御参照下さい。

工場適地たり得る地域の廣さ

上に述べた五方面の各地域に存在する適地候補の延坪数は、一六三箇所約三百萬坪と言ふ尠大な廣さに上つてゐます。即ち、第一表に見られる如き内譯を持つてゐます。

(第一表)

方面	地域	空地廣さの		箇所數	延坪數
		最低	最高坪		
東横線沿線	A、太尾	五〇〇坪	一五〇、〇〇〇坪	三六	一、〇二三、五〇〇坪
	B、綱島 (日吉ヲ含ム)	三〇〇坪	一二五、〇〇〇坪	二一	四〇六、七六〇坪
省線横濱沿線	計	三〇〇坪	一二五、〇〇〇坪	五七	一、四三〇、二六〇坪
	C、小机	一、七〇〇坪	一〇〇、〇〇〇坪	一七	四九六、八〇〇坪
神中線沿線	D、長津田	五〇〇坪	一三五、〇〇〇坪	一一	二一八、三〇〇坪
	計	五〇〇坪	一〇〇、〇〇〇坪	二八	七一五、一〇〇坪

以上總計	東海沿線	湘南線沿線		神中線沿線	
		計	G、富岡 H、金澤	計	E、二俣川 F、瀬谷
線道海東沿線	I、戸塚	一、五〇〇坪	三〇〇坪	五〇〇坪	五〇〇坪
	計	一一、〇〇〇坪	四〇、〇〇〇坪	一五、〇〇〇坪	九、五〇〇坪
以上總計	計	一八	一三	三九	一八
	延坪數	一七八、〇〇〇坪	八八、四九〇坪	四九七、一五〇坪	七九、九〇〇坪
一六三	二、九〇九、〇〇〇坪	二〇、七五〇坪	六七、七四〇坪	四一七、二五〇坪	二、九〇九、〇〇〇坪

の如くになります。

適地の坪數別の分類

右の如く一六五箇所二、九五六、〇〇〇坪の各適地候補を廣狭の大小により分けて見ますと、第二表の如くになり、各地域の廣さの特性が出て参ります。

(第二表)

線沿線中神	線沿線東	線沿線横東	面方
F、瀬谷	E、二俣川	A、太尾 B、網島 (日吉ヲ含ム)	地・域
計	計	計	500坪以下
一	一	五	個所
三	二	四	500坪～1,000坪
八	五	一	1,000坪～2,000坪
六	一	一	2,000坪～3,000坪
八	二	三	3,000坪～5,000坪
七	六	九	5,000坪～10,000坪
一	一	四	10,000坪～15,000坪
一	一	八	15,000坪～20,000坪
五	五	二	20,000坪以上
			個所
			一〇三七
			二四六
			一個所
			八

線沿線東海	線沿線南湘	總計
I、戸塚	G、富岡 H、金澤	
計	計	
一〇	三	三
八	一	一
一三	二	二
九	一	一
二三	二	一
三一	六	二
一七	一	一
一〇	一	一
四二	一	一

右より見られますことは、各地域を通じて、何れも三、〇〇〇坪以上の適地候補の多いことで、全個所の四分の一が三、〇〇〇坪以下で四分の三が三、〇〇〇坪以上、一〇、〇〇〇坪以上のもの丈

でも四割以上を占めてることが分ります。

各地域の大凡の特質を廣さと言ふ點文だけで擧げて見ますと

大規模工場向適地の多いのは

太尾、小机、瀬谷、が擧げられ、

中規模工場向適地の多い地域としては

網島、長津田、二俣川、戸塚、金澤が擧げられ、

小規模工場向適地の多い地域としては、

富岡及び網島が挙げられませう。

さて之等の諸地域の各個所が工業立地上必要の諸条件——道路の条件、動力の条件、水利の条件、労力の条件、交通の条件、そして価格の条件等がどんなに具備されてゐるか、について以下に示して見ませう。

立地条件

道路条件

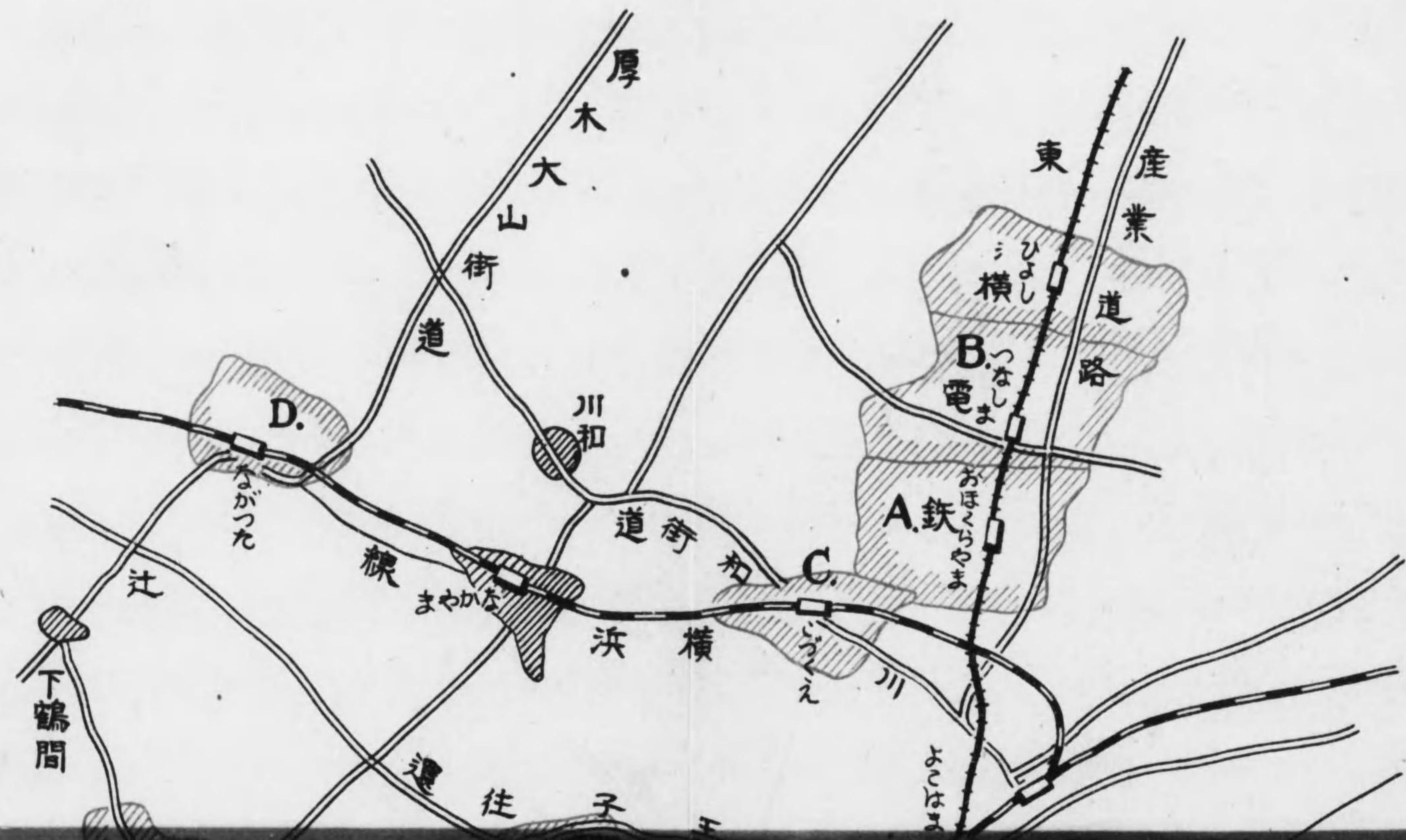
適地候補の諸地域は、成程交通機關の沿線にありますが、大量の材料や製品の輸送に際しては、必ずしもこの交通機關は、十分に利用出来ません。横濱線と、東海道線が貨物輸送線として役立つ他の各線の貨物輸送量は今の所では、まづ小さいものとしか言へません。

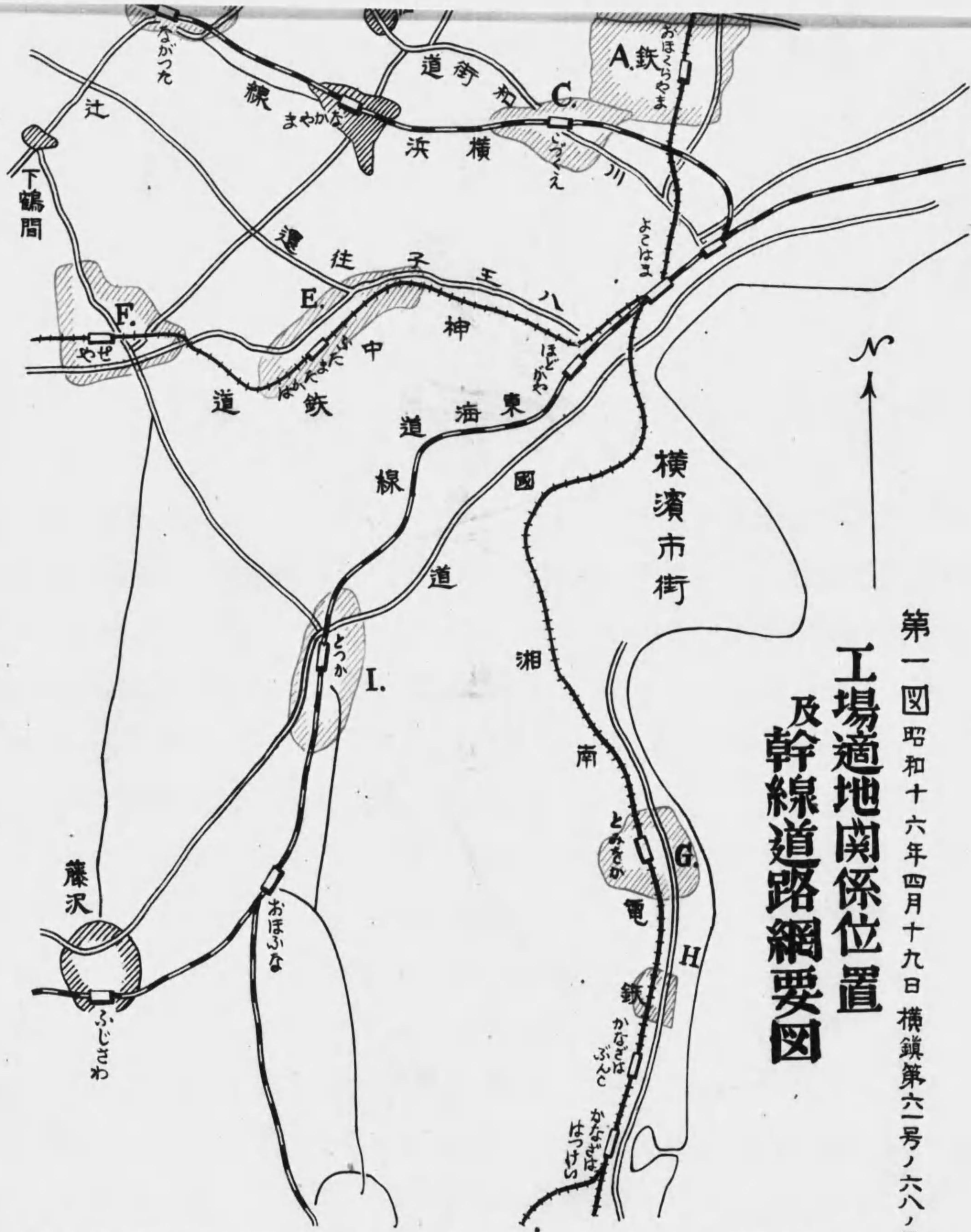
茲に於て自動車路に十分考慮を拂ふ必要を生じて來ます。

今各方面各地域に通ずる主要トラック幹線道路を挙げて見ますと、(第一圖参照)

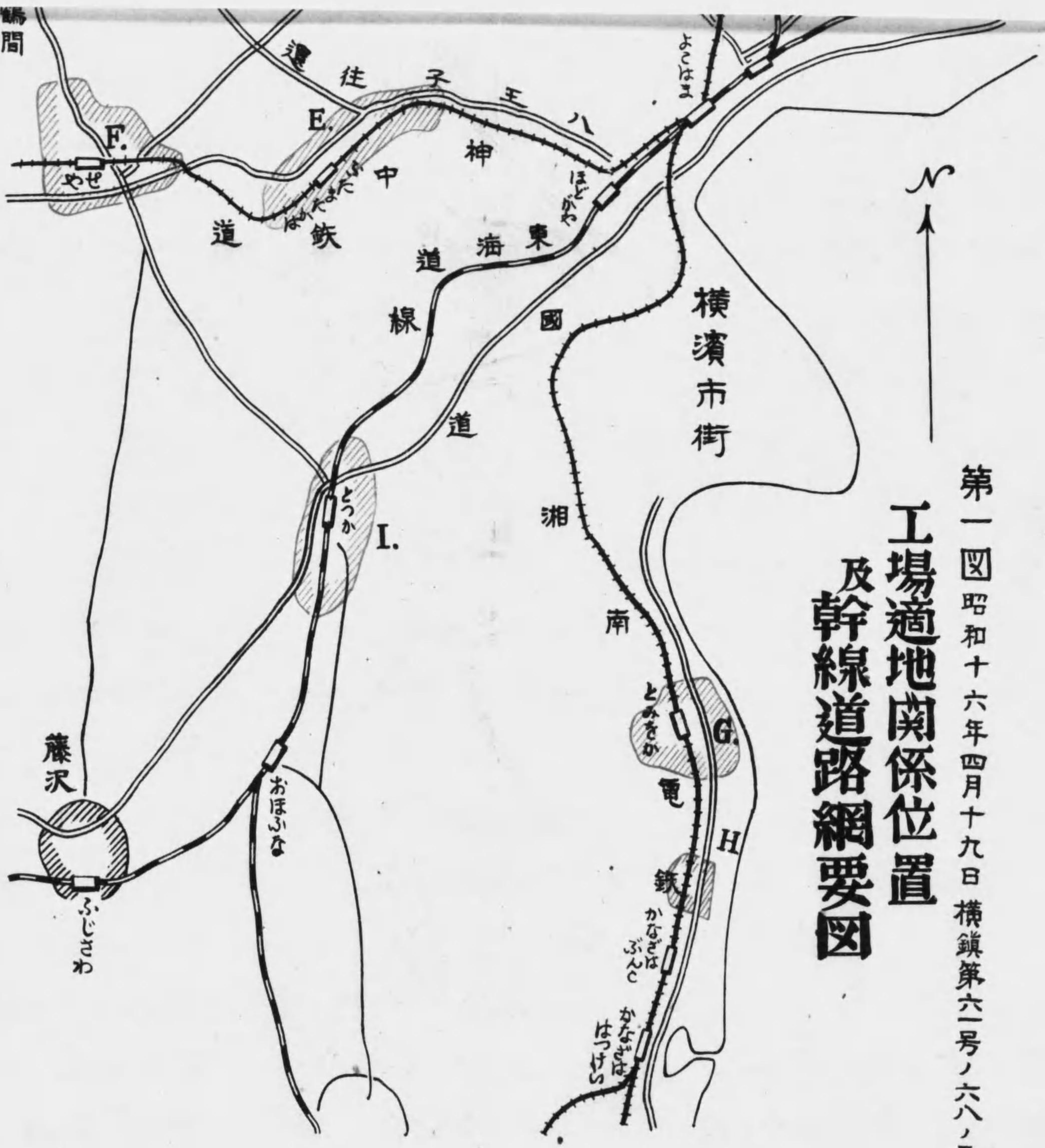
東横線沿線

通稱「産業道路」三號幹線道路と言はれてゐる幅員二〇米舗装トラック道が東京市内——丸子—





第一圖昭和十六年四月十九日横鎮第六号ノ六八二
工場適地関係位置
及幹線道路網要図



第一圖昭和十六年四月十九日横鎮第六号ノ六八ノ二許可済

工場適地関係位置
及幹線道路網要図

住吉——日吉——綱島——太尾——菊名——東神奈川を連絡して、動脈的幹線をなし、之に幅員一〇米の通稱溝之口——鶴見縣道が綱島に於て直交してゐます。

横濱線沿線

「川和街道」と通稱される幅員二〇米の舗装四號幹線が東神奈川——六角橋（茲にて三號幹線と連絡する）——岸根——を経て小机に至り、更に鶴見川左岸地區を川和方面へ延びてゐます。本幹線は川和附近より分岐して、中山町を連絡し、中山町よりは、横濱線西側に沿ふて、一〇米トラック道が長津田へと走つてゐます。

長津田は通稱厚木大山街道——幅員約一〇米舗装トラック道に沿ひ、東すれば溝之口を経て東京方面に、西すれば下鶴間——座間を経て厚木に連絡してゐます。前述の如く、隣接工業適地中山町へもトラック道あり、又下鶴間との中間、辻にて八王子往還と交叉して横濱程ヶ谷方面及び原町田、八王子に連絡し、下鶴間より南下すれば、瀬谷を経て戸塚、藤澤へと連絡します。

神中線沿線

程ヶ谷より出發してゐる八王子往還即ち六號幹線道路は（現在は幅員一〇米内外ですが、目下二〇米幅員の舗装路に改修中です）鶴ヶ峯に於て西折して、二俣川——三ツ境——二ツ橋を経て厚木へと延び、二ツ橋にて、下鶴間——瀬谷——戸塚トラック道と交叉してゐます。

湘南線沿線

横濱市内——杉田——富岡——金澤——追濱——横須賀を連絡する幹線は幅員二〇米の舗装道路です。

東海道沿線

申すまでもなく、國道東海道が戸塚地域を南北に縦断してゐます。又地域の北部柏尾より北西に折れたトラック道は、上矢部——阿久和を経て二ツ橋——瀬谷——下鶴間に至り之より東して八王子、溝之口に、西して厚木に延びてゐます。又、地域の中央より西折したトラック道は中田——長後を経て、厚木へと延び、又地域の中央を貫流する柏尾川の左岸に沿ふて延びてゐるトラック道は大船を経て鎌倉へと続きます。

以上を圖示したものが第一圖です。

かくして以上の諸地域は何れも至便な幹線道路網により各地に又相互に至便に連絡されてゐる事が分りませう。

ところで茲に問題となるのは、各地域の各個所が、之等諸幹線と如何なる關係にあるかと言ふ事です。之に就ては次の第三表がその回答を與へて呉れるでせう。

各工場適地候補所より幹線道路に出るまでの距離

(第三表)

線沿線南湘	線沿線中神	面方線濱横	線沿線横東	面方
H、G、 計 金 富 澤 岡	F、E、 計 瀬 二 谷 俣 川	D、C、 計 長 小 津 机 田	B、A、 計 綱 太 (日吉ヲ含ム) 島 尾	地 域
九 三 六	二 一 一 六 五 一	一 八 八 六	三 一 一 〇 四 六	100米 以下
	七 二 五	一 一	二 二	100米 ~ 200米
	三 三	三 一 二	一 一	200米 ~ 300米
四 四	一 一	三 二 一	四 一 三	300米 ~ 500米
二 二	三 三	六 六	一 〇 三	500米 ~ 1000米
一 一		一 一	五 五	1000米 以上

東海 沿道 線	I、戸塚	一五	一	一	六	一
總計		九個所 六	一個所 一	八個所	一個所 一三	二個所 七

右によりまして、全候補個所中の約八割近くが幹線へは五〇〇米以下で出られる事が分ります。そして一〇〇米以下と言ふ短距離で出られるもの丈けでも約六割を占めてゐると言ふ事實は候補個所をして、愈々輸送便の條件を有利づける事となりませう。

動力入手條件

本調査の対象となつた諸地域は、大都市の近郊である爲め遠距離送電線は、何れの個所をも通つてをり、又變電地點ともなつて居る地域ですが、此程度では電氣化學工業の如きものの立地には便ですが、一般工業の立地には三、三〇〇ボルト程度の動力線乃至は二二〇ボルト程度の低壓動力線の配備如何が問題となります。

又動力の配線は近頃の如き資材難の時代には最寄の配電端より工場受電端までの距離も問題となります。此等の點についての資料を次の第四表で参考に供します。

適地候補個所附近に於ける動力配備状況

(第四表)

面 方 地 域	三、三〇〇ボルト動力線配備		二二〇ボルト動力線	
	配備あり 個所	配備なし 個所	配備あり 個所	配備なし 個所
東横線沿線 A、太尾 B、綱島 (日吉ヲ含ム)	三 二 一	四 三	二 二 一	一 四 一
横濱線沿線 C、小机 D、長津田	一 七 一	一 一	一 一 一	一 一 一
神中線沿線 E、二俣川 F、瀬谷	一 八 一	一 一	一 一 一	一 一 一
計	五 〇	七	二 二 三	一 五
配電端より受電端までの最高距離				
東横線沿線	一、五〇〇米	五〇〇米	二〇〇米—七〇〇米	五〇米—一〇〇米
横濱線沿線	八〇〇米	三〇〇米	三〇〇米—七〇〇米	五〇米—一〇〇米
神中線沿線	一〇〇米	五〇〇米	二〇米—五〇米	五〇米—三〇〇米
計	二 八	一 一	二 八	一 一

線道海東 線道海東 線道海東	線道南湘	
	計	計
I、戸塚	H、金澤	G、富岡
一二二	一一三	一六六
一	七	一七
六二〇米	一五米	三〇〇米
二〇米—一〇〇米	一〇米—一五米	三〇米—一〇〇米
一九	八	七
四	八	六
一三五		
二八		

右の表で見る如く動力配備の無いもの（厳密に言へば配電端の稍遠いもの）は二割以下でまづ動力入手には不便はないと見るべきでせうし、大部分の箇所は五〇—二〇〇米の程度の配線で受電可能と言ふ事になります。

水利状況

工業立地条件の一としての水利条件は、各方面各地域を通じて、例へば大きい河川等の無い地方の事として、大量に水を要する工業の立地には不向きですが、普通の機械工業、軽化学工業等には少しも不自由はありません。舊市域附近の地域には多少上水道の便がありますが、その以外の地域に

ては、豊富な井水に恵まれ、現在井戸の無い所にも、鑿井は可能であります。鶴見川流域方面には鶴見川を主流とする小河流が多く存在して、小規模の工業用水源を構成してゐます。排水に關しては何分下水道の設備なきこと、平坦地形の多いとの關係から決して良好なりとは申されませ

ん。

(第五表)

線道南湘	線道東横	面方	
		地	域
D、小計	C、小計	A、太尾	B、綱島 (日吉ヲ含ム)
一七	一七	一六	一六
一一	一一	三九	二一
二七	一六	二四	一七
一	一	三二	四
二八	一七	五五	一九
一	一	一	一
二六	一五	三六	一二
二	二	二〇	九
一	一	一	一
二八	一七	五六	二一
			三五

	東海 道線	湘南線 沿線	神中線 沿線
總計	I、戸塚	G、富岡 H、金澤	E、二俣川 F、瀬谷
四〇個所	二	五三二	一〇一
一一個所	一八	一一一	三八二〇一八
一一個所	二三	六一五	三五一七八
四七個所	一	一〇二八	四四一
一五個所	二三	一三三〇	三七一九一八
五個所	一	三十三	一一一
一〇個所	一四	九三六	三二五二八
五個所	九	七七一	一六一六一
五個所	二	三三三	一一一
一五個所	二一	一三三〇	三七一九一八

勞力供給の條件

上表で見られる如く、先づ「工業用水」としての條件は及第と言ふ事になりませう。
 戦時下の今日、勞力不足は都鄙を通じての傾向ではありますが、大都會は依然として勞力の供給源としては絶對的の立場にあります。従つて大都市近郊の本調査地域の工場の要求する勞力の供給

には必ずしも大なる困難は感ぜられないのであります。

本調査に於ける諸地域の大部が農業地帯にある爲、所謂農閑餘剩勞力の有無の如何が考慮せられますが、今日の情況下に於ては、近郊の蔬菜農に於てすらも勞力不足ですから餘剩勞力などは期待し得られません。しかし乍ら都市の膨脹と共に、近郊農業地帯は漸減的傾向にありますから、農業の轉換による勞力の生じて來るのが考へられます。かくして本調査の諸地域にあつても此種の勞力供給が多少は期待出来るものとなりませう。此の問題に對して次の表(第六表)は現地の人々の勞力轉換の可能不可能の意志を表明してゐるものと見られます。

(第六表)

線	横濱	東海	湘南	神中	方面
線	線	線	線	線	地域
D、長津田	C、小机	B、綱島 (日吉を含む)	A、太尾	E、二俣川 F、瀬谷	附近より勞力を 多少は得られる
一〇	一五	二	一二	一〇一	附近より勞力を 殆ど得られない
一	一	一	一	一	不明
一	二	一	九	一	

線道	東海沿線		湘南沿線		神中沿線	
	東海沿線	湘南沿線	湘南沿線	湘南沿線	神中沿線	神中沿線
總計	58	80	18	22	11	11
	1, 戸塚					
		1, 4	1, 1	2, 2	1, 1	1, 1
			H, 金澤	G, 富岡	F, 瀬谷	E, 二俣川

上表よりして、湘南沿線、戸塚方面では現地調査は殆ど不可能であるとして他の地域に付ては、多少は現地調査の可能を知ることが出来ます。結局、横濱、横須賀の大都市を主要供給源とせねばなりません。

大都市を勢力供給源としました時間問題となるのは、通勤用交通機関の配備の如何です。

この點に關しては、本調査対象の諸地域がすべて交通機関沿線にあると言ふことが、先づ、それへの回答の冒頭をなませう。

次で考慮されるのは、大都市の通勤基點と、各地域との間を通勤するに要する時間でありませう。第七表、第八表はこの時間の問題に對する解答です。

各地域各個所より最寄りの驛まで出るに要する徒歩の時間

(第七表)

面方	東沿線	横濱沿線	湘南沿線	神中沿線	湘南沿線	南沿線
地域	A, 太尾 B, 綱島 (日吉ヲ含ム)	C, 小机 D, 長津田	E, 二俣川 F, 瀬谷	G, 富岡 H, 金澤		
五分以内	八個所	九個所	一五個所	三個所		
十分以内	六個所	四個所	二個所	二個所		
十五分以内	七個所	三個所	一個所	一個所		
二十分以内	七個所	一個所	一個所	一個所		
三十分以内	七個所	三個所	一個所	一個所		
三十分以上	三四个所					

東海沿線		東海沿線	
總計	I、戸塚	總計	I、戸塚
	三	五個所	三個所
	四	二個所	一個所
	一	三個所	二個所
	三	二個所	一個所
	二	一個所	一個所
		七個所	七個所

即ち全個所の七割迄は、十五分以内で又三割五分までは五分以内で交通機關をキャッチ出来ることとが分ります。

次に通勤基點より各個所までの時間はどうなつてゐるかと申しますと、次表を御覽下さい。

最寄驛より横濱驛までに要する時間

(第八表)

線	東海沿線	横濱線	横濱線	面方												
				A、太尾	B、網島	C、小机	D、長津田	十分以内	二十分以内	三十分以内	四十分以内	五十分以内	一時間以上			
線	東海沿線	横濱線	横濱線	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
				三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
				一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
				一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
				一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
				一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

地價及び地代

全地域を通じ最高四十分以内を以て、通勤基點より到達し得る事が分ります。

東海沿線		湘南線		中神沿線		總計
I、戸塚	H、金澤	G、富岡	F、瀬谷	E、二俣川		
二						八
三						四
一						三
						六
						三
						一
						六
						三
						一
						六
						三
						一
						六
						三
						一
						六
						三
						一
						六
						三
						一
						六
						三
						一
						六
						三
						一
						六
						三
						一

以上に示して参りました如き、工業立地上の各種條件が揃つた後、最後の決をなすものは、土地を手に入れる事の實現性の如何です。

即ち、土地を地主より「得られるか、得られないか」の問題と手を打つべき「地價及び地代はどの位か」の問題であります。

今地主が、その地所を手放すとした場合に、各個所の地價及び地代の標準値段を知る必要があります。

この問題につき左の第九表をそのパイロットたらしめませう。

各地域に於ける地價、地代の標準

(第九表)

方面	地域	地價圓/坪當			地代錢/坪當		
		最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値
東沿	A、太尾	一五圓	五〇圓	一〇—二〇圓	一〇錢	三〇錢	一五—二〇
横線	B、網島	一	三〇	一〇—一五	一	二三	一五—二〇
横沿	C、小机	三	三九	一〇—二七	一	一一	四—九
濱線	D、長津田	三	八	四—六	不	明	
神沿	E、二俣川	二五	一四	八一—一〇	二	八	三一—五
中線	F、瀬谷	二	五	三一—四	一	四	二—三

各地域内に於て場所により價格には、相當な開きがありますが、最も大部分を占めてるのが右表中の平均値であります。細部については調査原票について詳しい記載があります。

工場適地を求められる方々へ

以上横濱市新市域の九地域に亘つて、その工業立地性の概略を示して参りましたが、本調査に於ける調査原票には、各地域の各個所について次に記す如き、詳細な項目について細かに記載されてをります。

此パンフレットにより大體の方面地域及びその位置等を御存じになりましたらば、是非、横濱市産業部商工課觀光係を訪れて調査原票を御覽になられるのが、最良の土地入手手段となりませう。

調査原票に於ける項目

- 1、位置〔 區 町（通稱） 〕（何番地）
- 2、面積（約 何坪（何米 × 何米））
- 3、現在の土地利用状況〔空地（原）・畑地・田地・森地・施工地〕
- 4、地貌〔平坦地・斜面地・階段地・凹地・凸地・臺地・波狀地・開
潤地・陰蔽地・濕潤地・乾燥地・砂地・埋立地・日向地・
日蔭地〕
- 5、附近の状況〔高級（中級・下級）住宅地・家並（梯比・分散）〕
- 6、近接道路状況〔附近を通過する幹線道路の名稱・その有無・適地
より幹線へ出るまでの距離・幹線へ出るまでの道路の状況
（道路の有無・新道構築の要不要・舗装の有無・冬季に於
ける状況・雨期に於ける状況・トラックの通過の可否・ダ
ットサンの通過の可否）〕

- 7、交通機關〔原材料輸送に利用し得べき交通機關・通勤用交通機關
（電車・バス）最寄駅までの徒歩時間・最寄駅より横濱驛
までの所要時間〕
- 8、動力配備状況〔附近に於ける高壓動力線（三、三〇〇V）及低壓
動力線（二二〇V）の有無・配電端より受電端までの最短
距離・供給會社・ガスの有無・引込點への最短距離〕
- 9、配水状況〔水道の有・無・引込點への最短距離、井戸の有無・鑿
井の能不能・水質の良否・水量の多少・河流の有無・流水
の多少・流水の清・濁・汚・揚水の不便・排水の良否・
下水道の有無・不完〕
- 10、勞力供給〔附近より得られるや否や〕
- 11、所有者〔氏名・住所・分買の可否〕地價及地代〔最低・最高値段
（坪當り）〕
- 12、其 他
- 13、見取圖〔各個所の地形・交通狀況・道路狀況・動力配備狀況を
記入せる略圖〕

以上の項目の細部的調査が全地域一六五個所の適地候補の各々についてなされてあります。

附 圖

を見られる上の注意

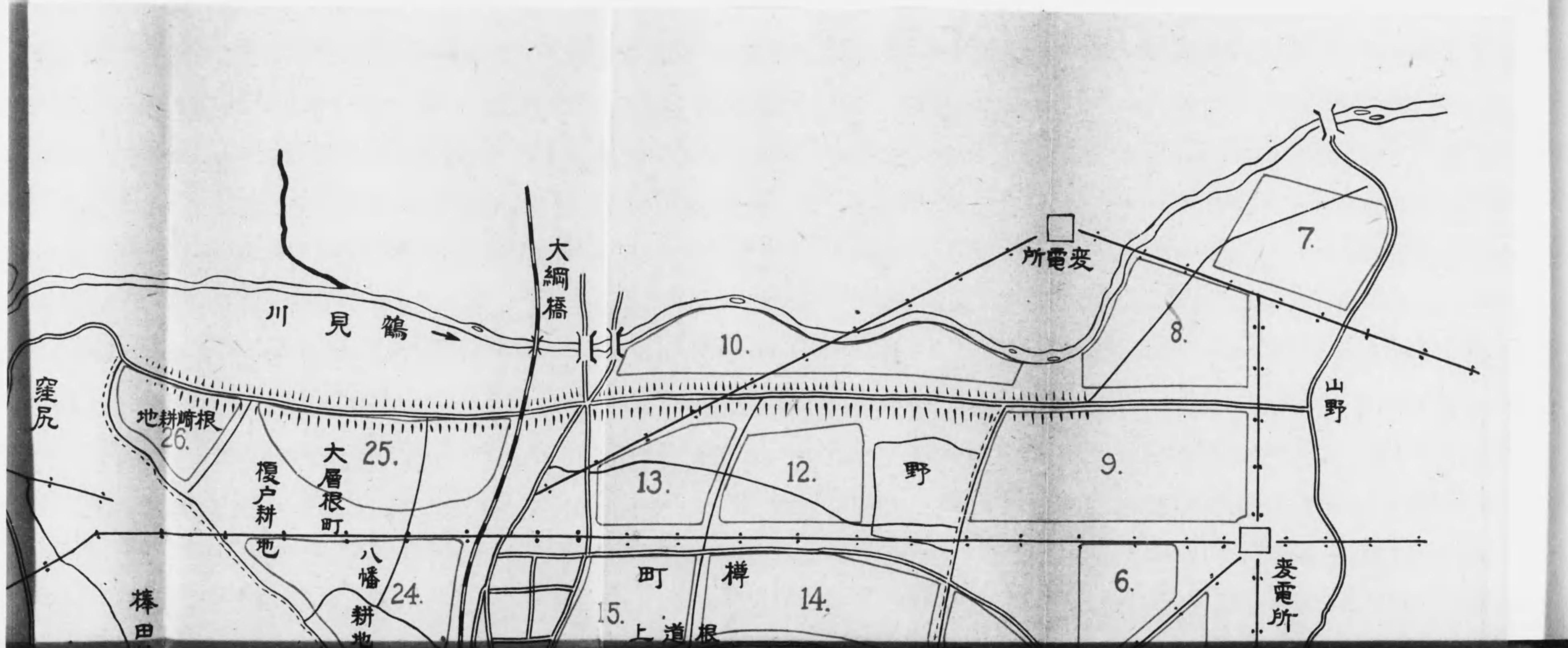
以下に各方面各地域に於ける工場適地個所を示した地圖を集めて置きました。

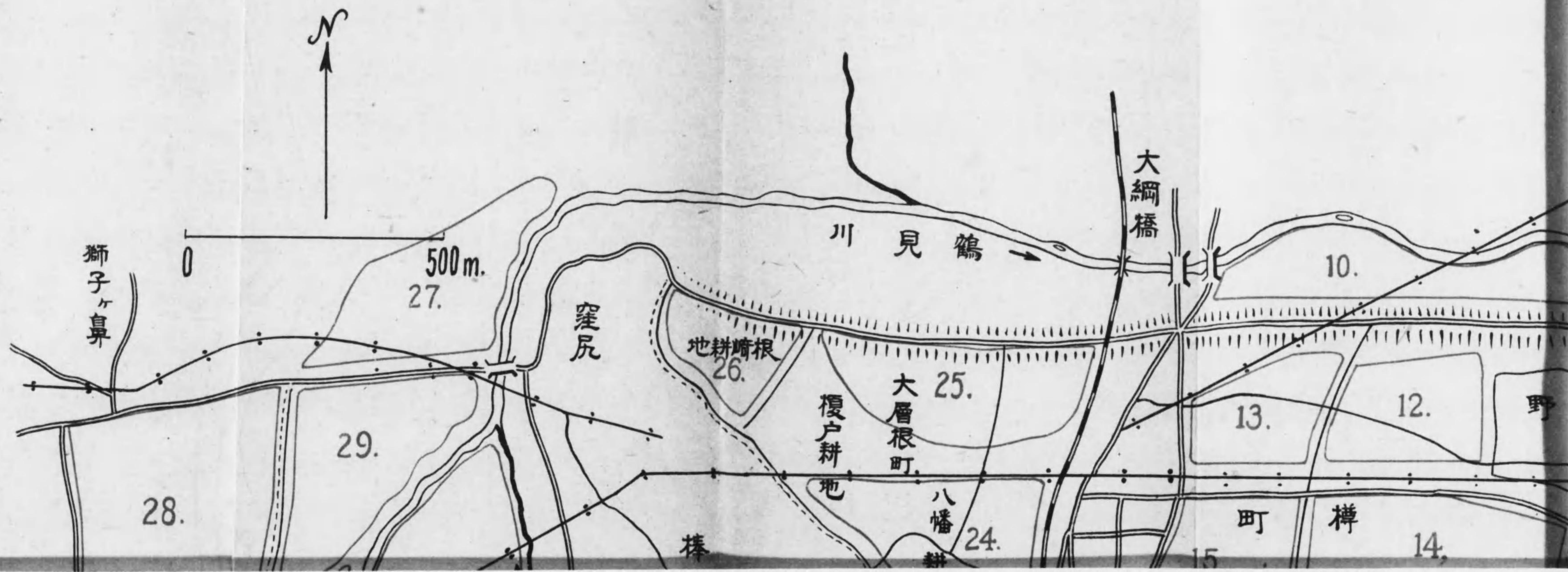
圖中に於て朱線で圍まれた部分が適地個所、數字は適地個所の番號であり、調査原票を見る際に知つておかねばならぬ番號です。

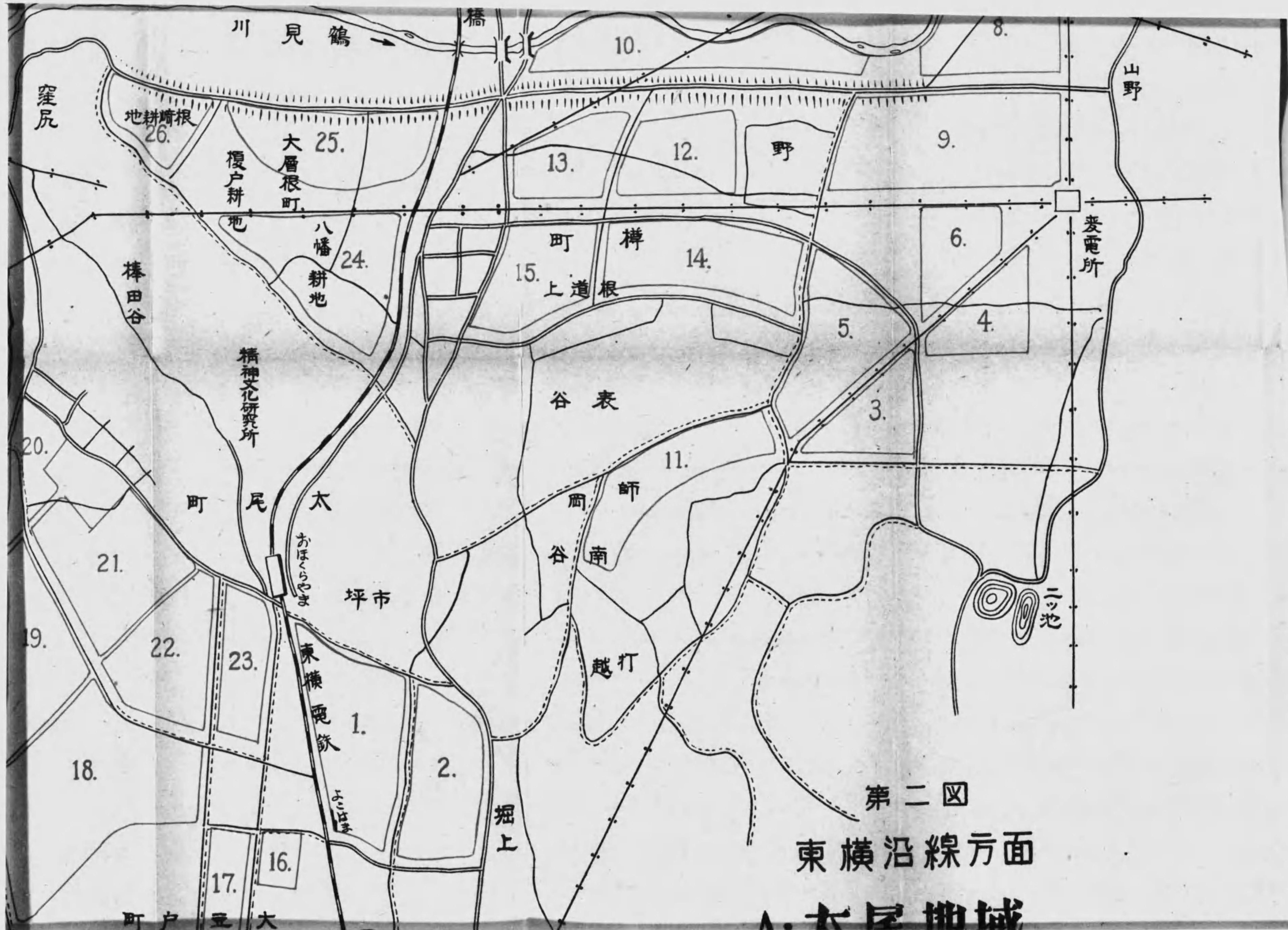
圖中……は遠距離送電線路です。

土地を調べられる方は、以上の記事より、方面と地域を決定された後、此附圖により適地個所を撰擇され、次で當産業部商工課觀光係に御出になつて調査原票を御覽になり、工場立地上の各種細部條件を御承知になるのが好適であります。

(二六〇一・三・二一・T・Y)



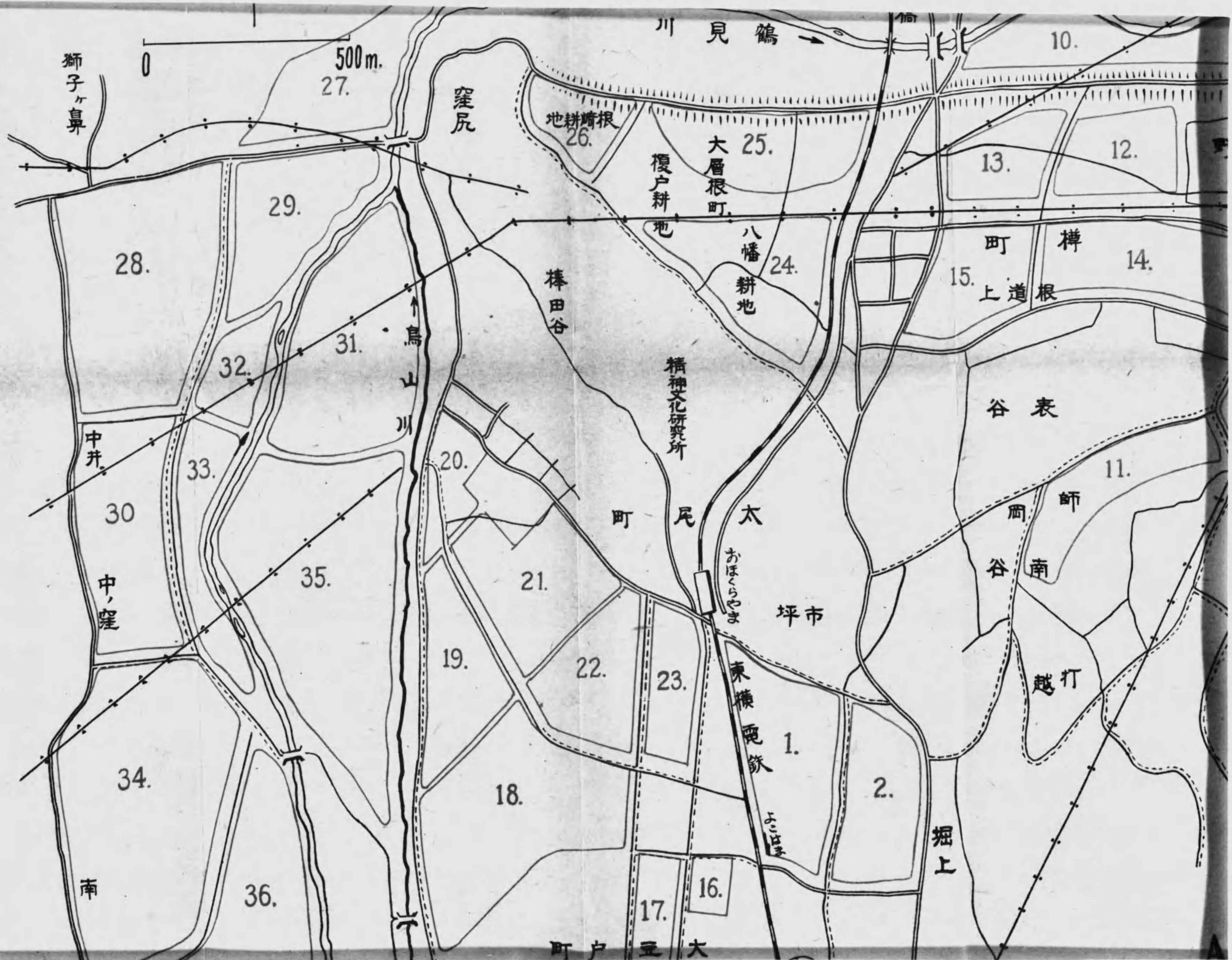




第二図

東横沿線方面

大層根地域



川見鶴

10.

獅子ヶ鼻

0

500m.
27.

窪尻

根崎耕地
26.

25.
大層根町

13.

12.

29.

覆戸耕地

八幡
耕地

24.

町 榑

14.

28.

棒田谷

15.
上道根

31.

鳥山川

精神文化研究所

谷表

32.

11.

中井

33.

20.

町 尾

太

岡 師

30

35.

21.

おほくらま

谷 南

中ノ窪

坪市

22.

23.

1.
東横電鉄

越打

34.

18.

2.

南

36.

堀上

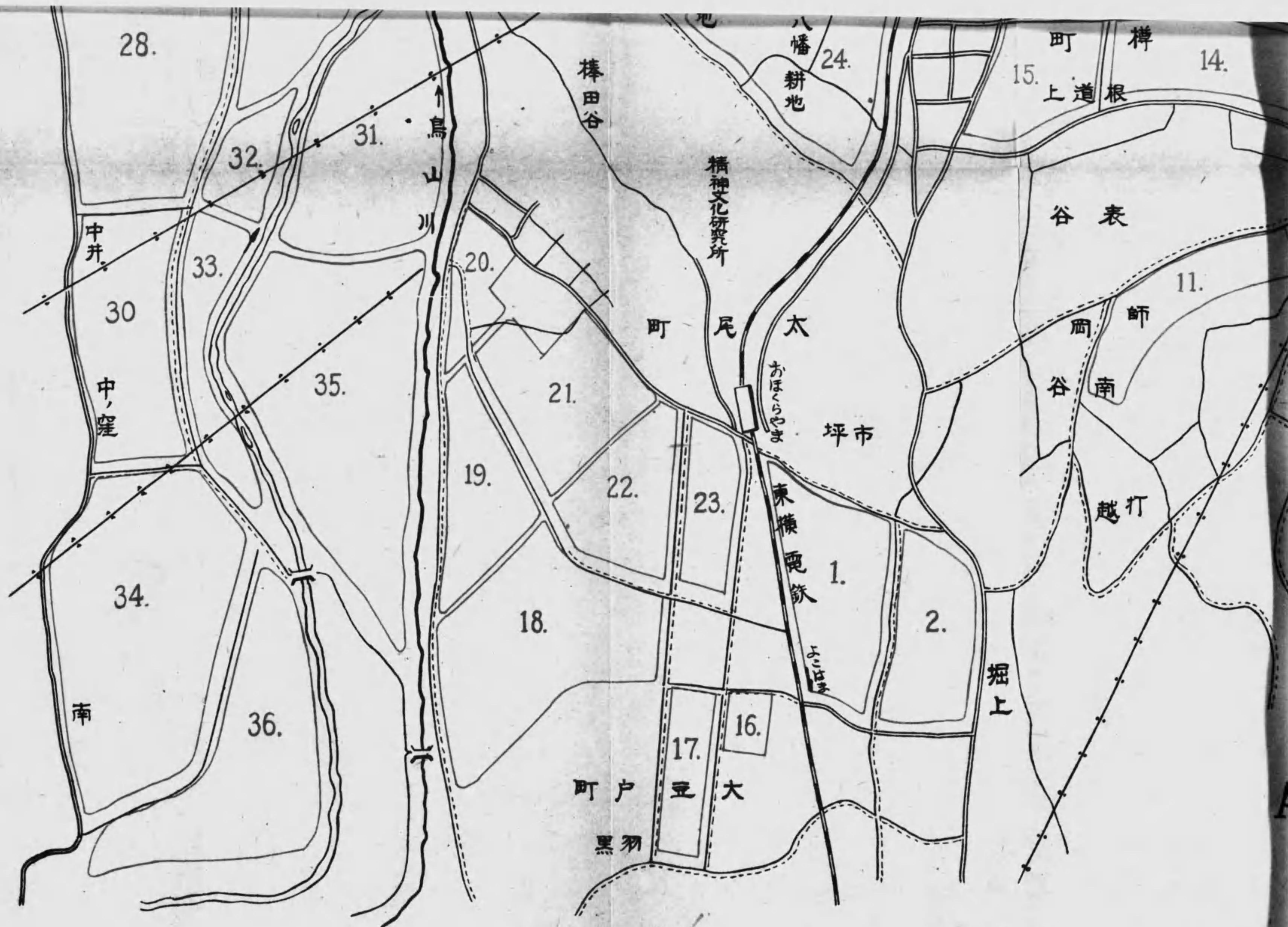
17.

16.

大 戸 町



第二図
 東横沿線方面
 A・太尾地域



28.

14.

棒田谷

八幡
耕地

24.

町 榑
15. 上道根

鳥山
川

精神文化研究所

谷 表

32.

31.

20.

中井

33.

30

町 尾 太

太

11.

35.

21.

中窪

おほくらま

岡 師

谷 南

坪市

19.

22.

23.

東横電鉄

1.

越打

34.

18.

2.

南

堀上

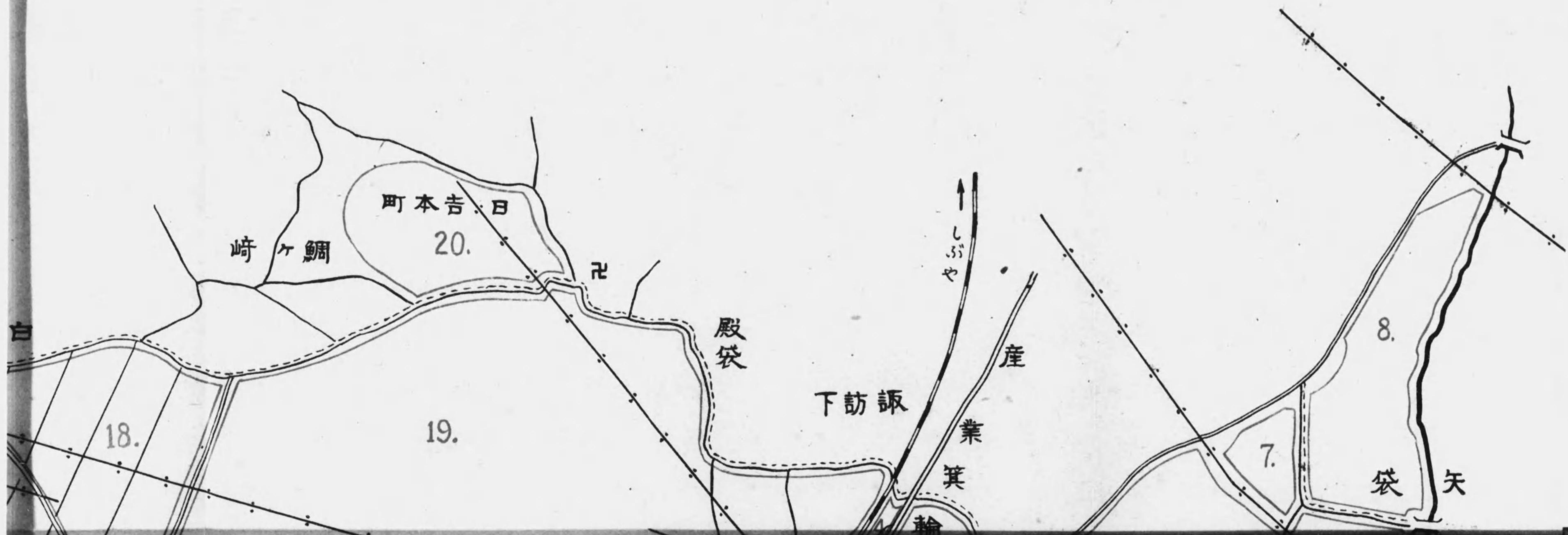
36.

町 戸 豆 大

16.

17.

黒羽



町本吉日

20.

崎ヶ鯛

川

殿袋

下訪諏

ししや

産

業箕

8.

袋矢

7.

18.

19.

白

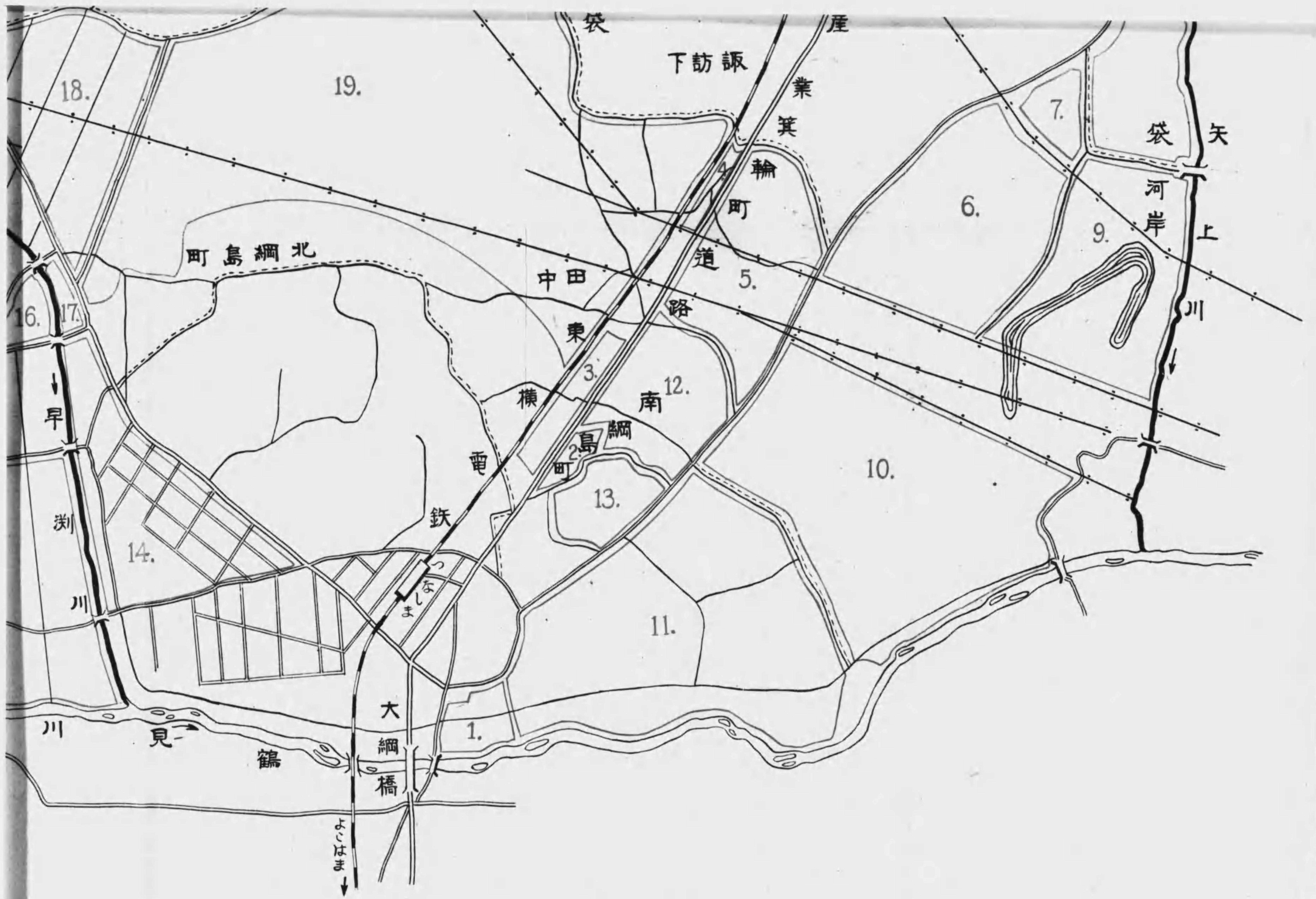
第三圖 東横沿線方面

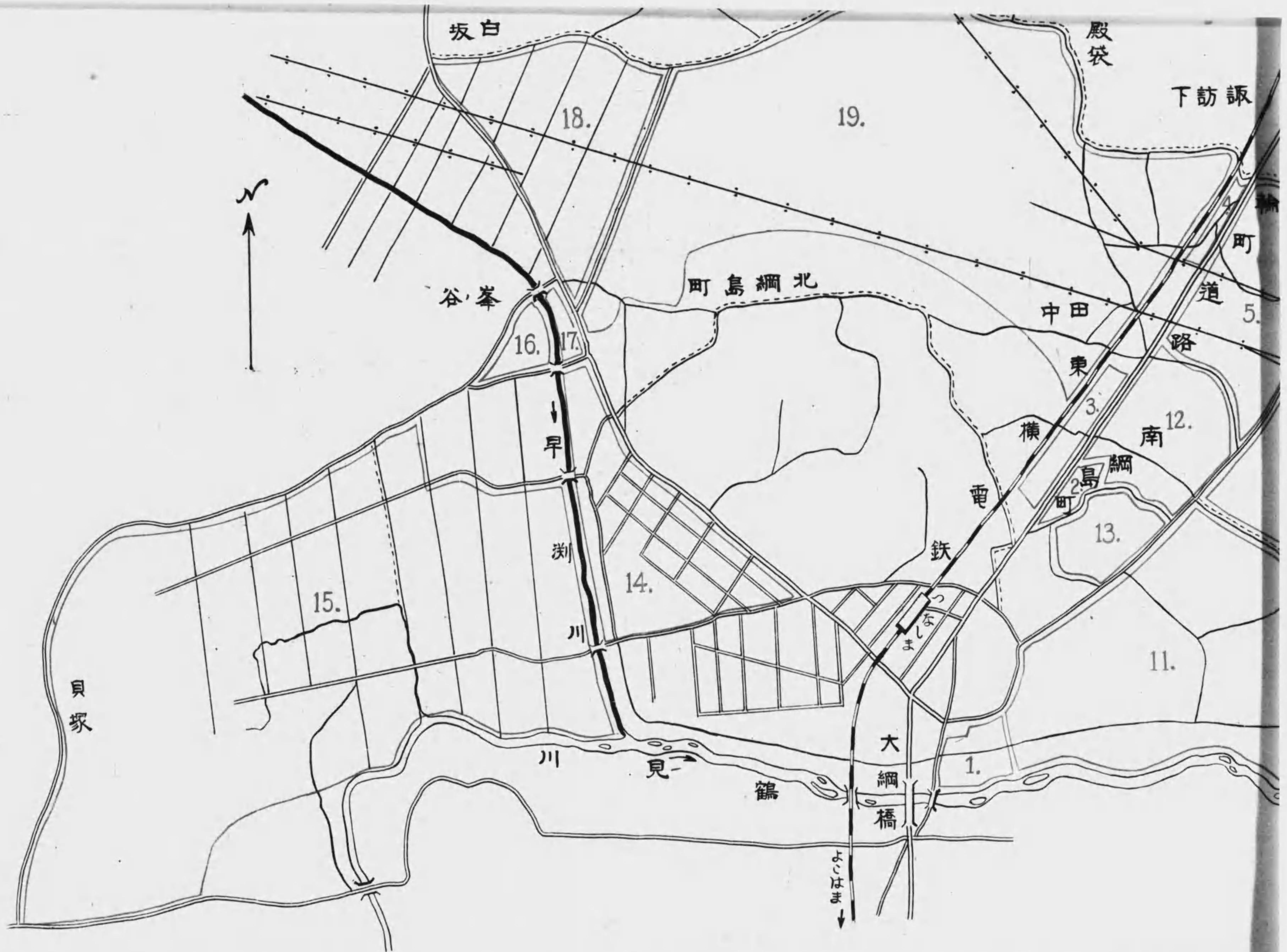
B. 綱島地域

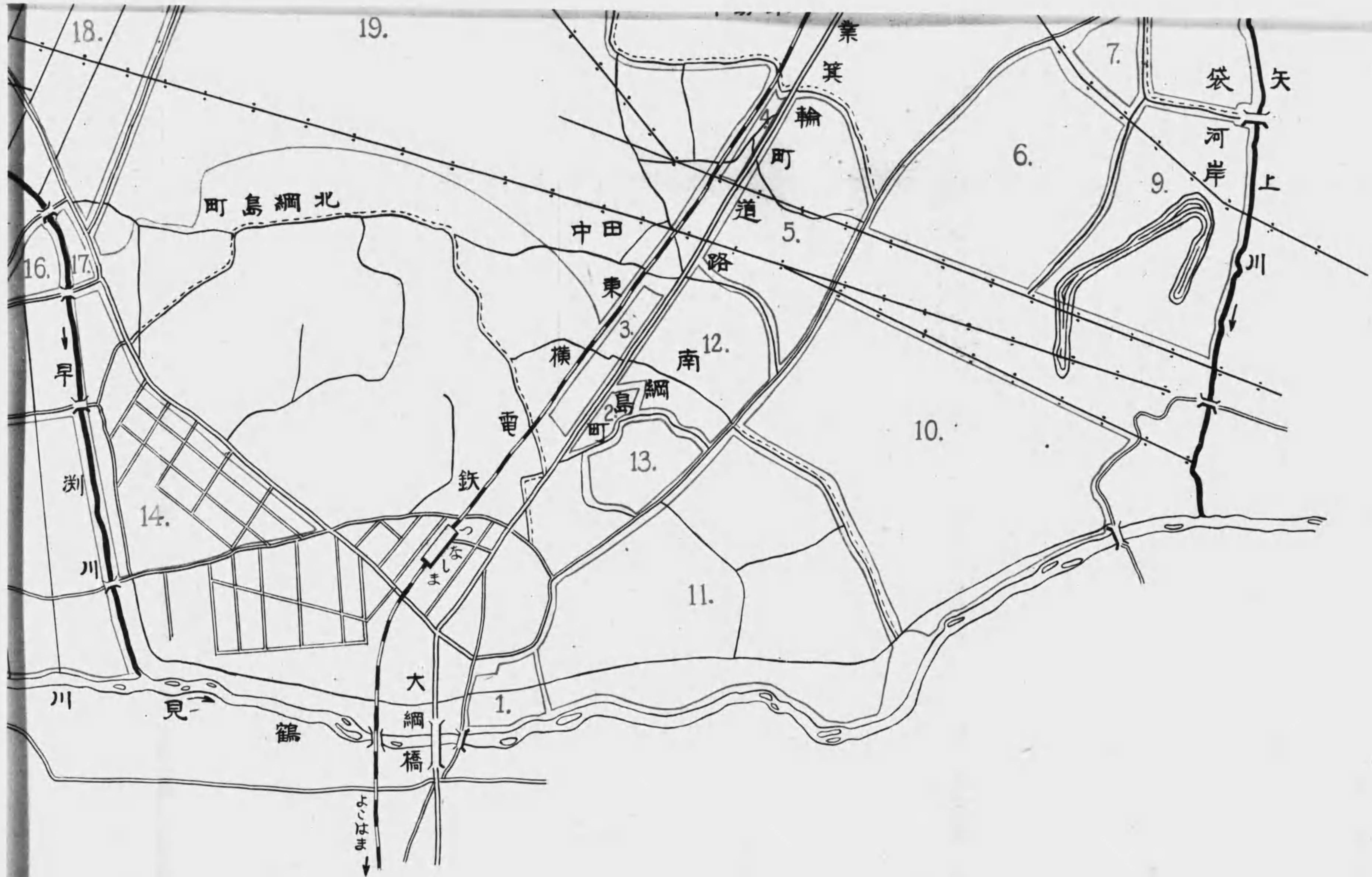
0 500m.

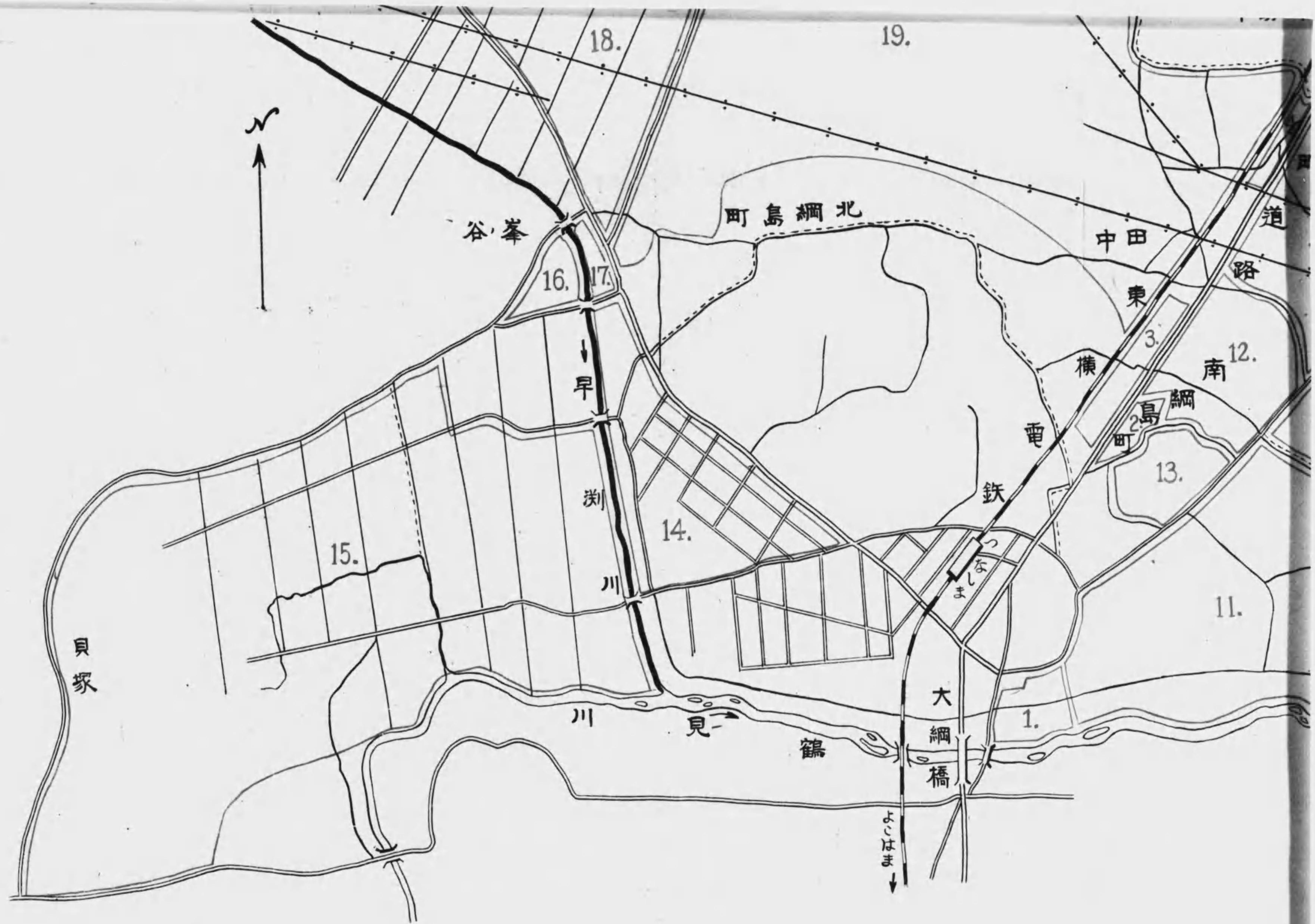


下訪諏









18.

19.

谷峯

町島綱北

中田

道

16.

17.

東

路

↓
早

横

南

12.

刈
川

電

鉄

綱島町

13.

15.

14.

11.

貝塚

川

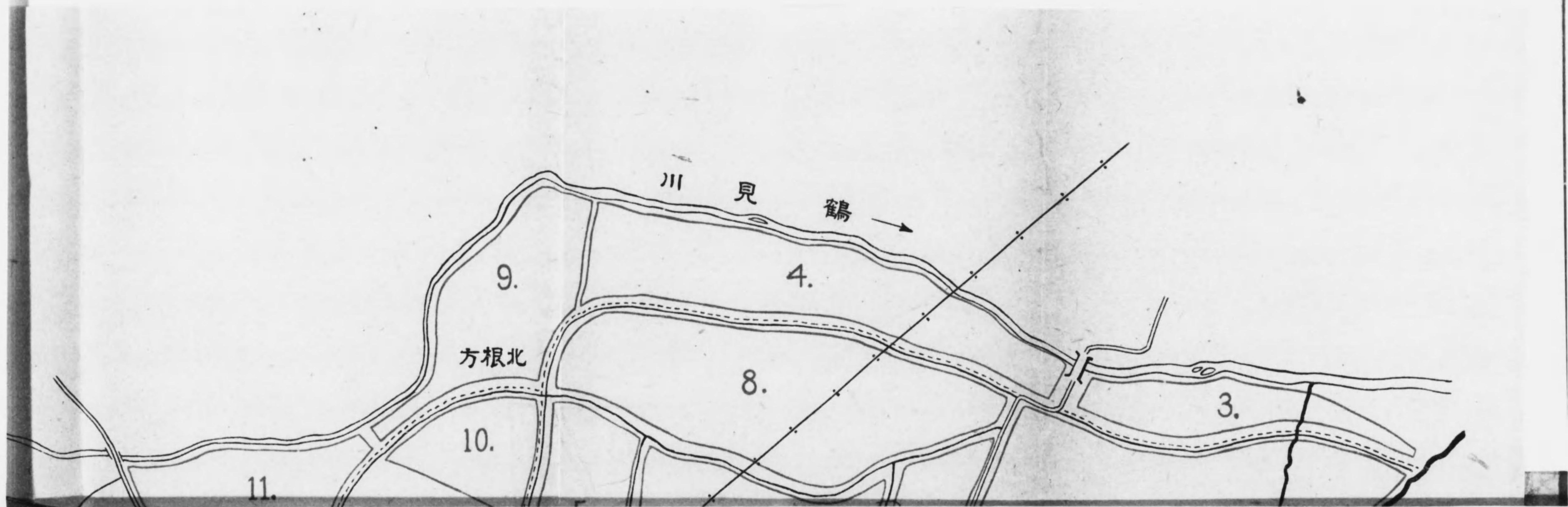
見

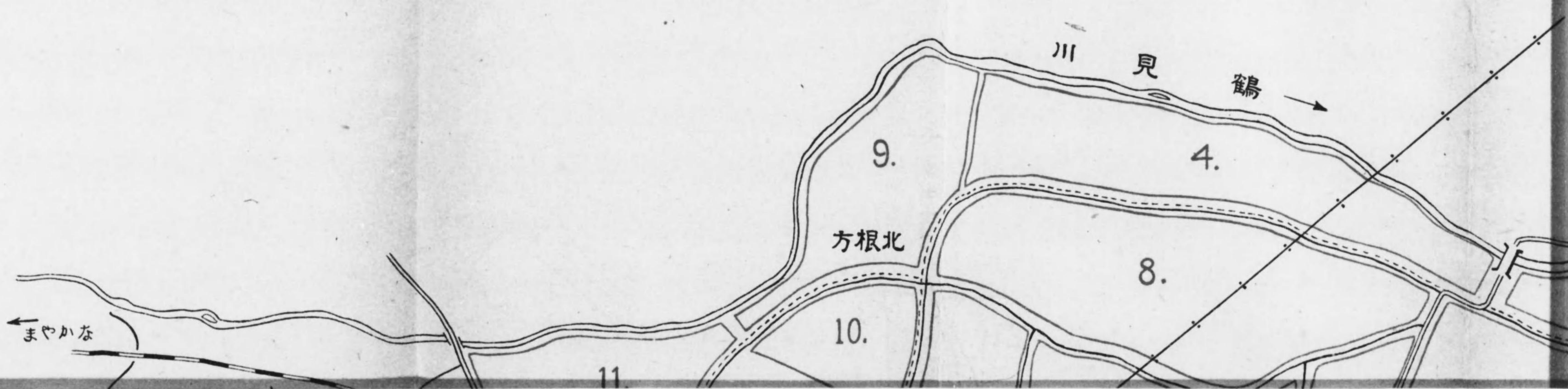
大綱橋

1.

鶴

よこはま
↓

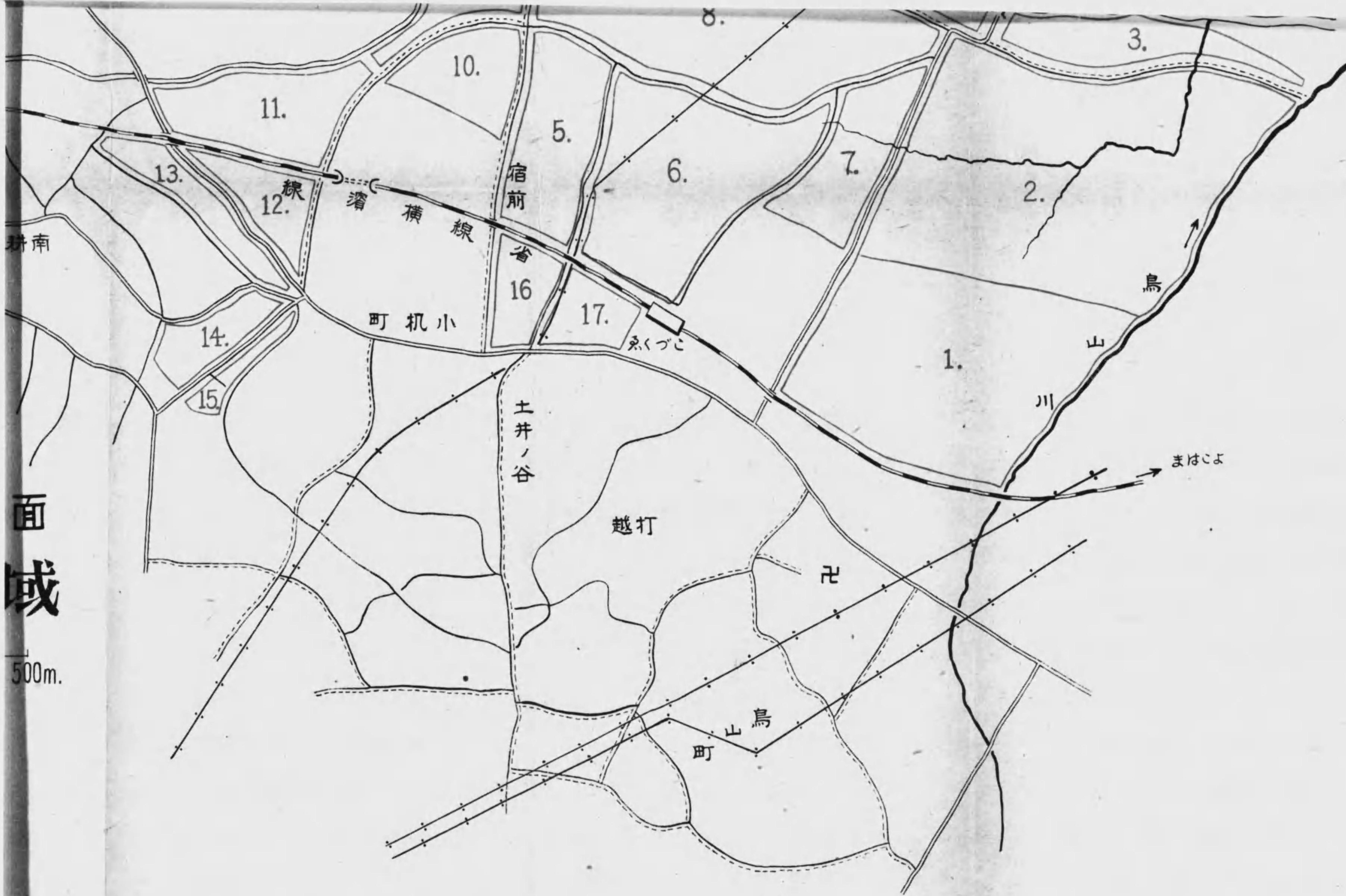




南

面域

500m.



11.

10.

5.

6.

7.

2.

3.

13.

12.

宿前

省

16

17.

えくづこ

町机小

1.

川

山

14.

15.

土井ノ谷

越打

㊦

まはこよ

町

鳥止



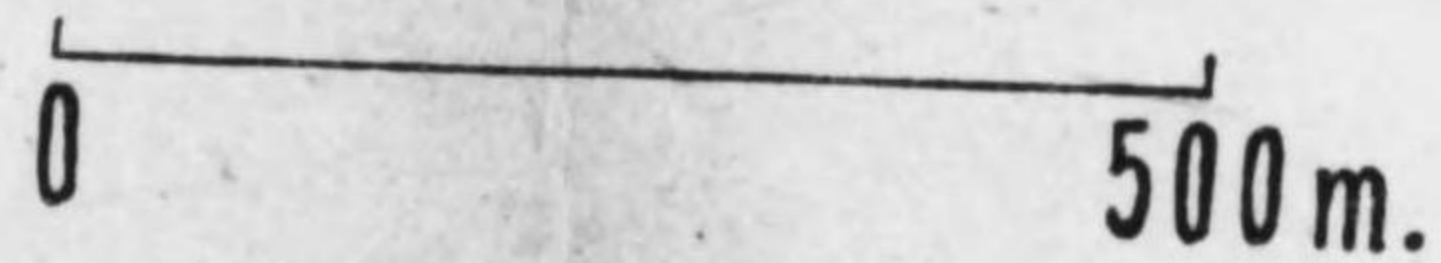
第四図
 横濱線沿線方面
 C. 小机地域

0 500m.



第五回 横濱線沿線方面

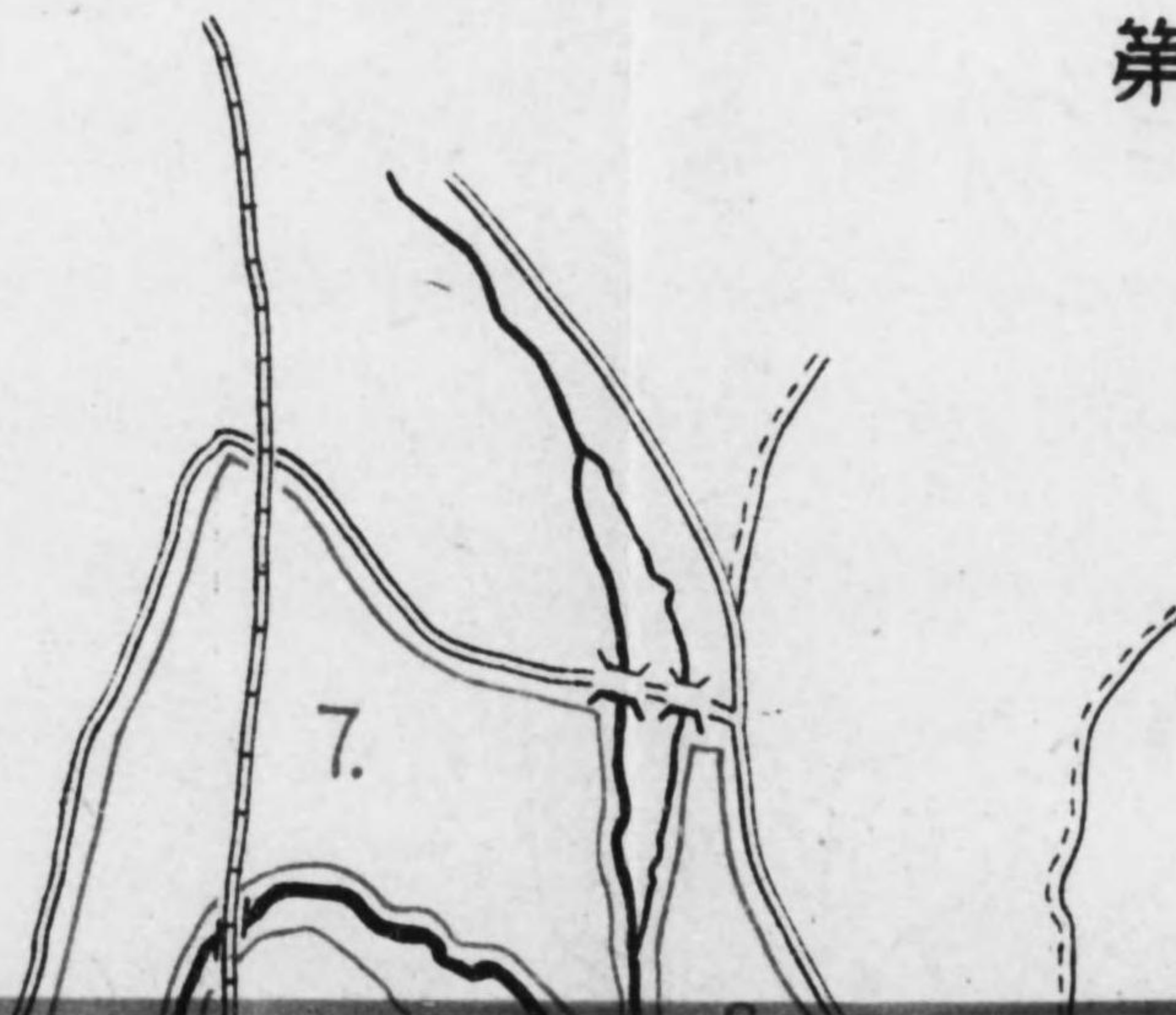
D・長津田地域



第五回 横濱線沿線方面

D・長津田地域

0 500m.



7.

8.

9.

10.

11.

寺光東 6.

5.

4.

2.

3.

1.

恩田川

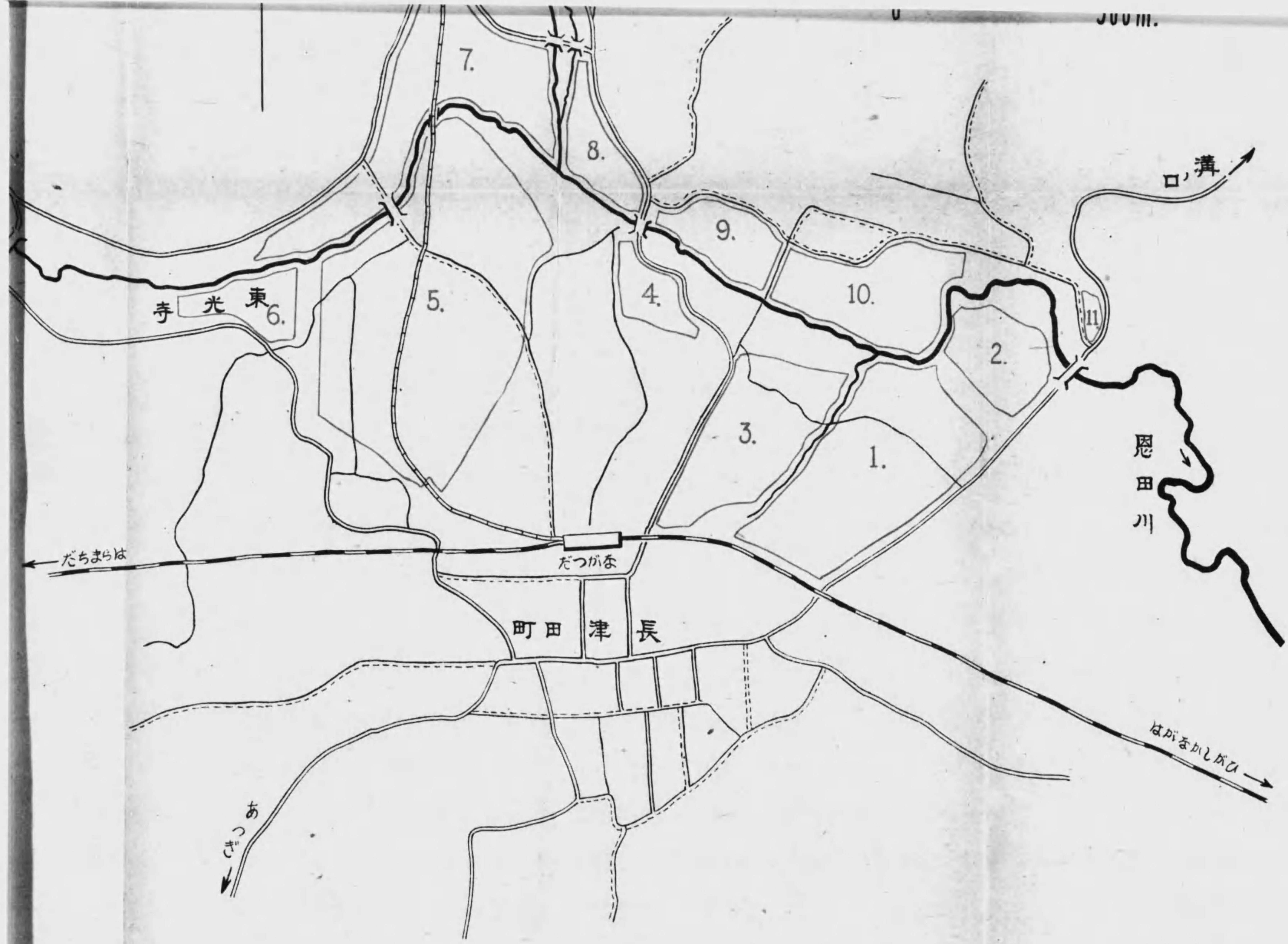
だちまらほ ←

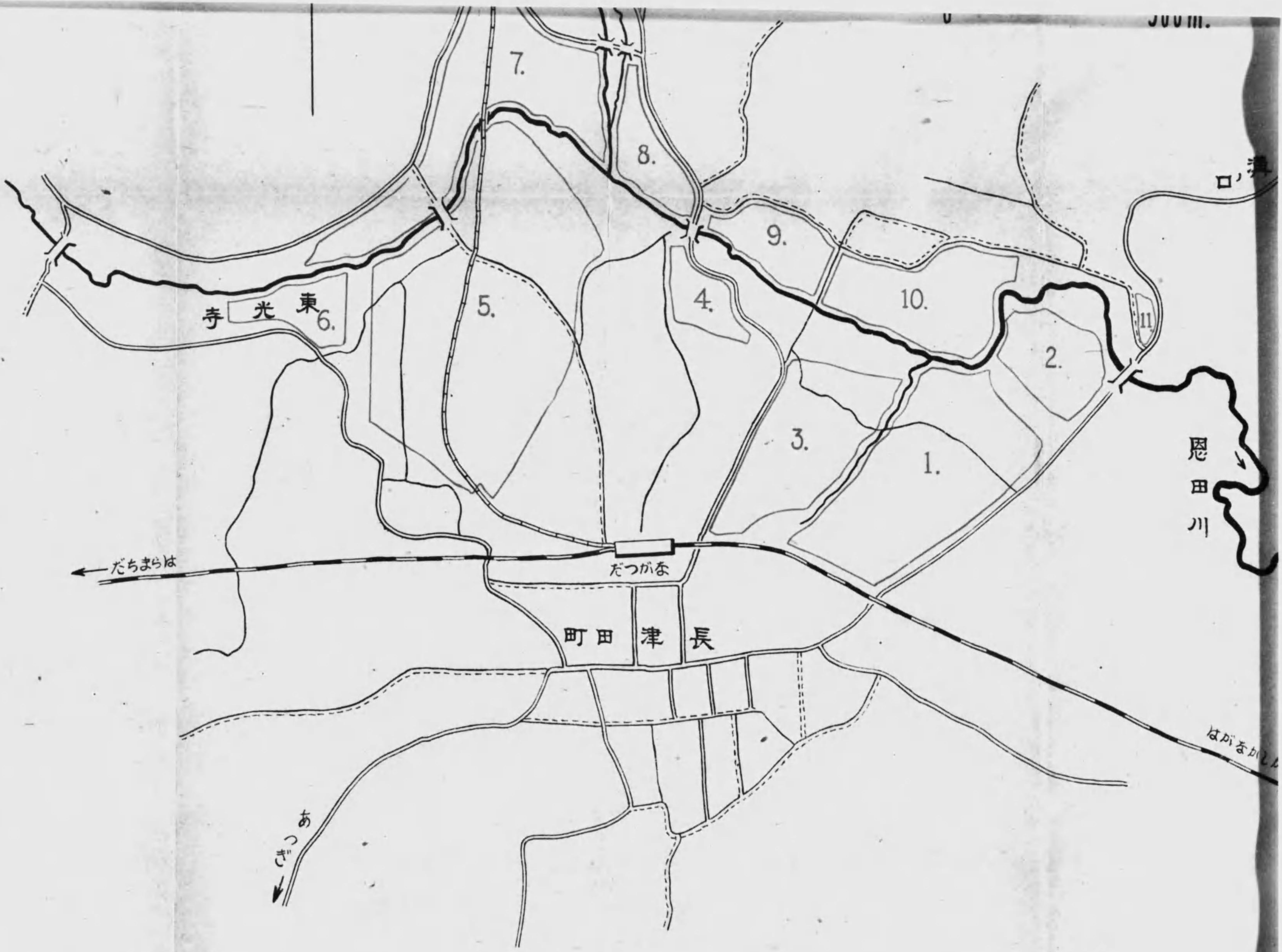
だつがな

町田津長

はがまかしがひ →

あ ぎつ ↓





四

線方面

ヶ峯地域



第六回

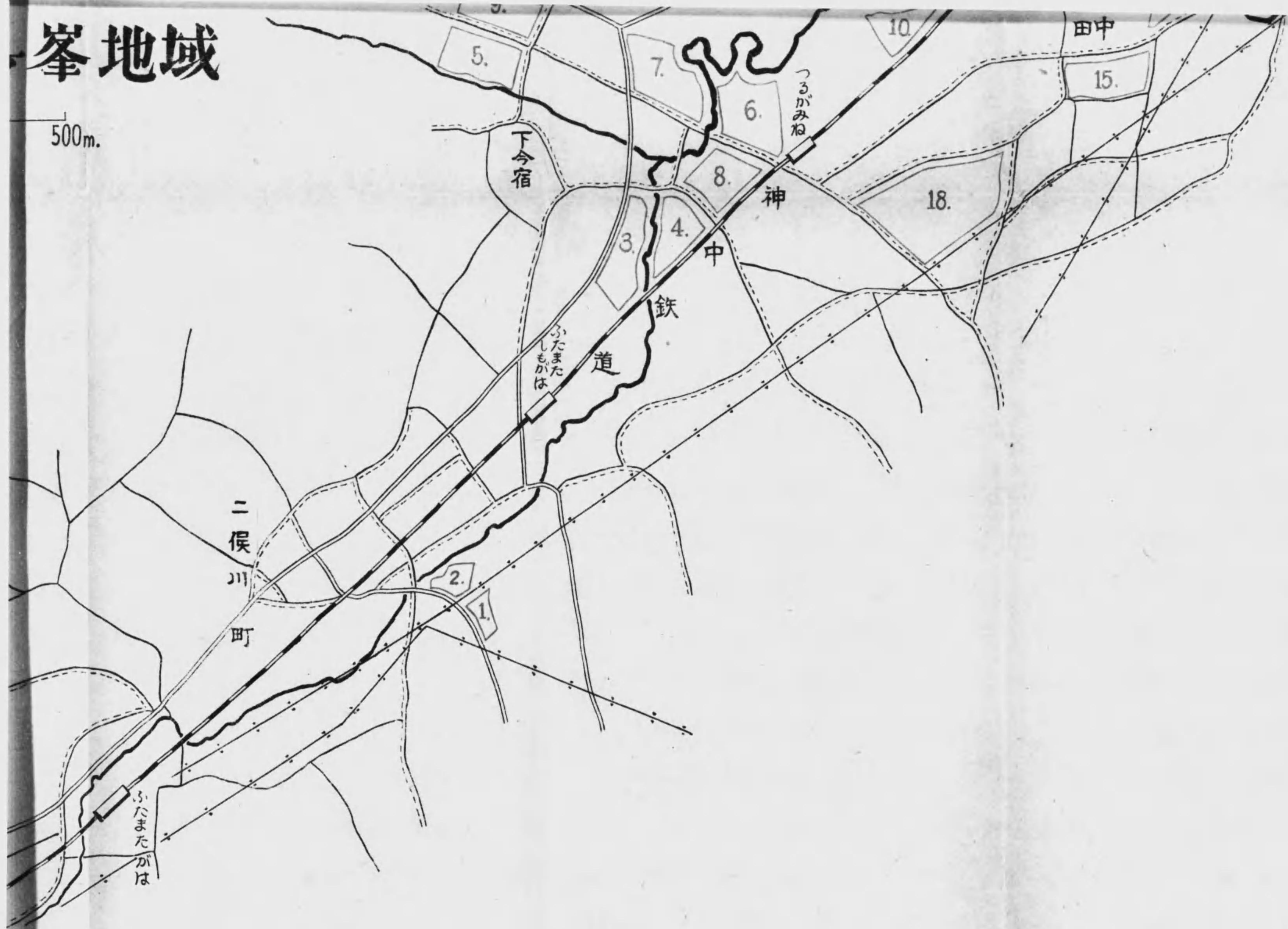
神中線沿線方面

E. 二俣川-鶴ヶ峯地域



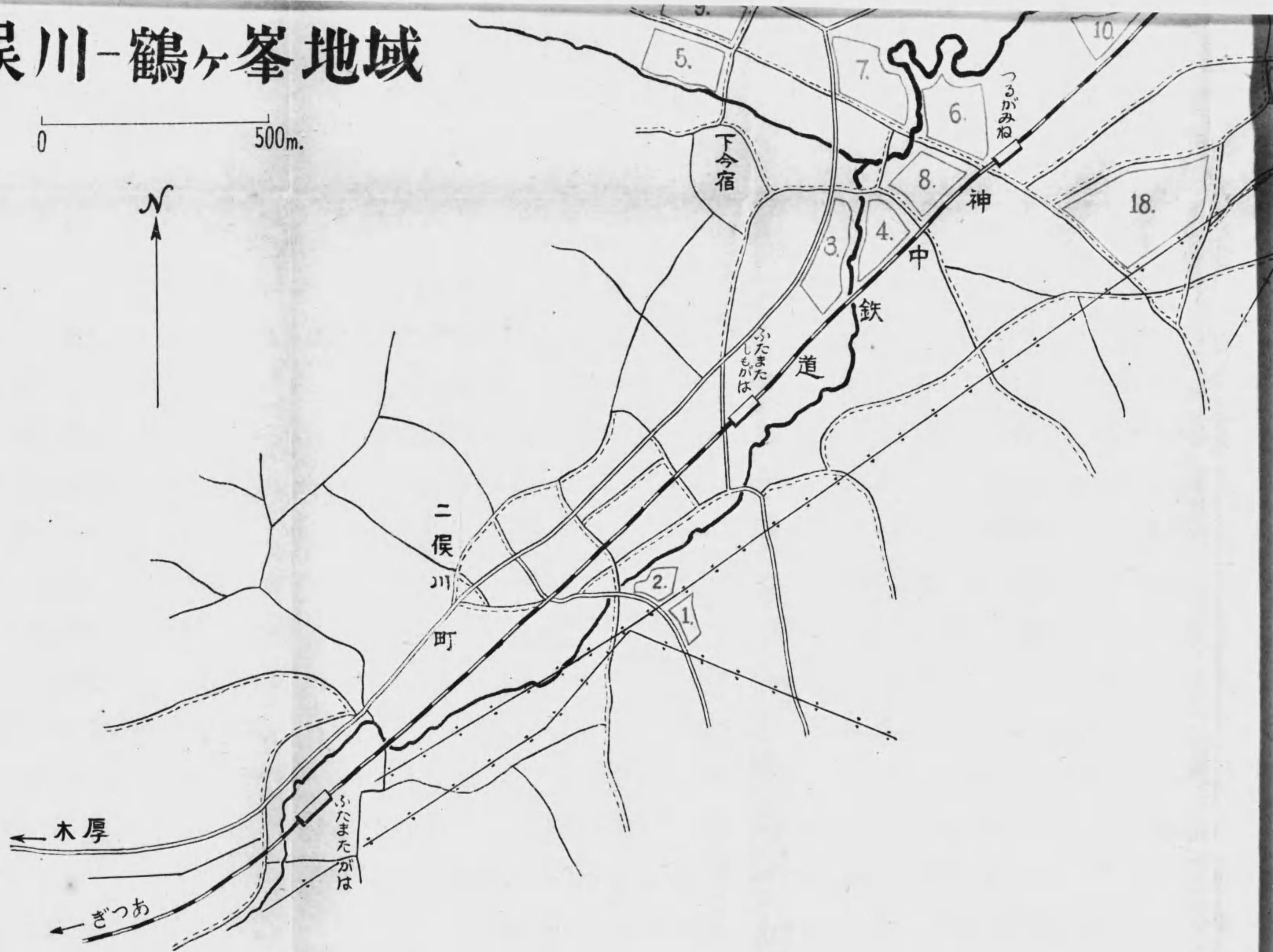
峯地域

500m.



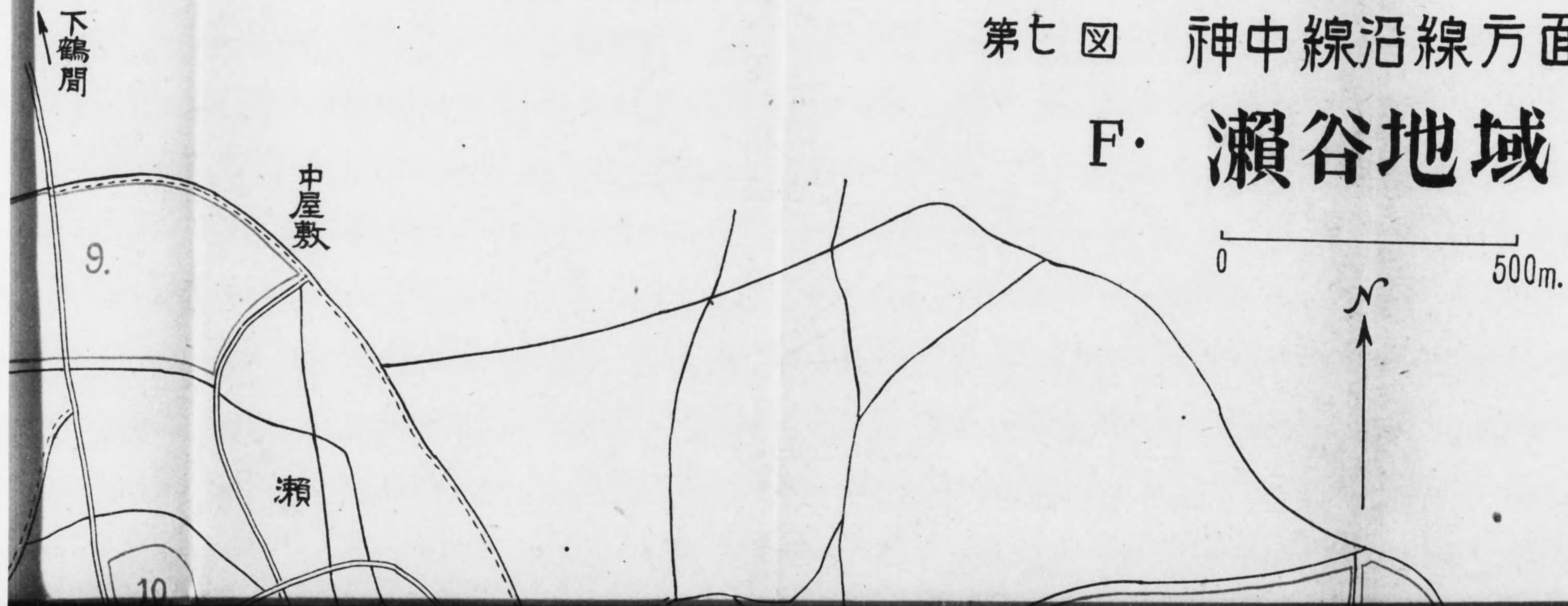
E. 二俣川-鶴ヶ峯地域

0 500m.

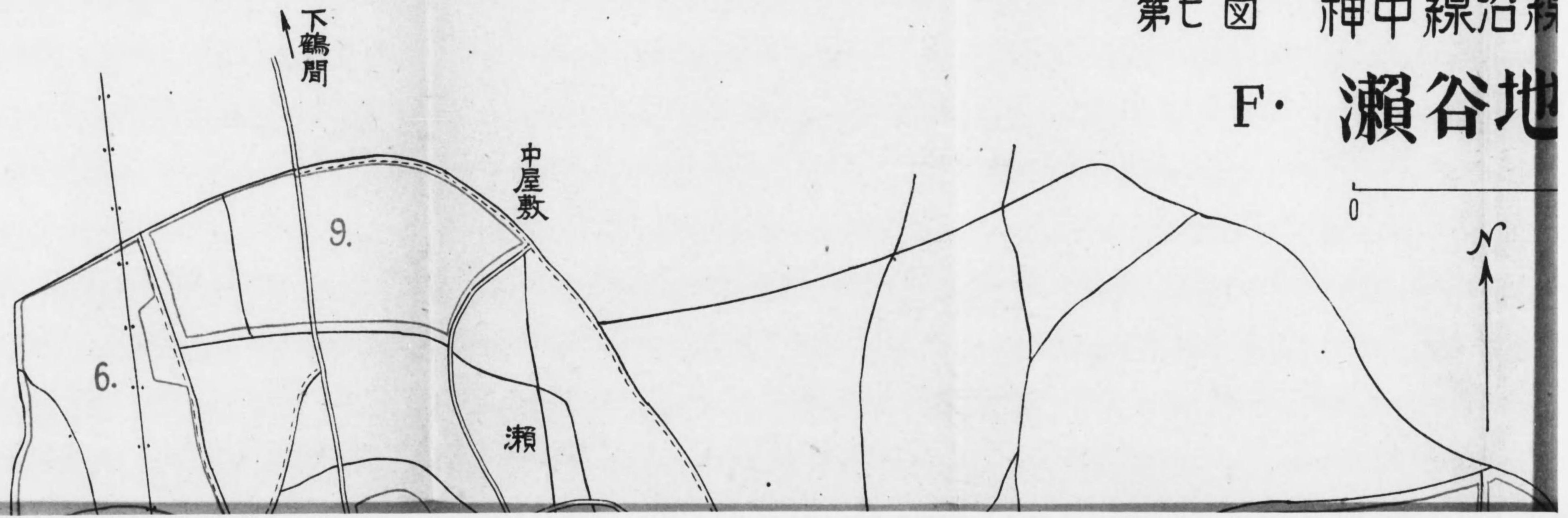


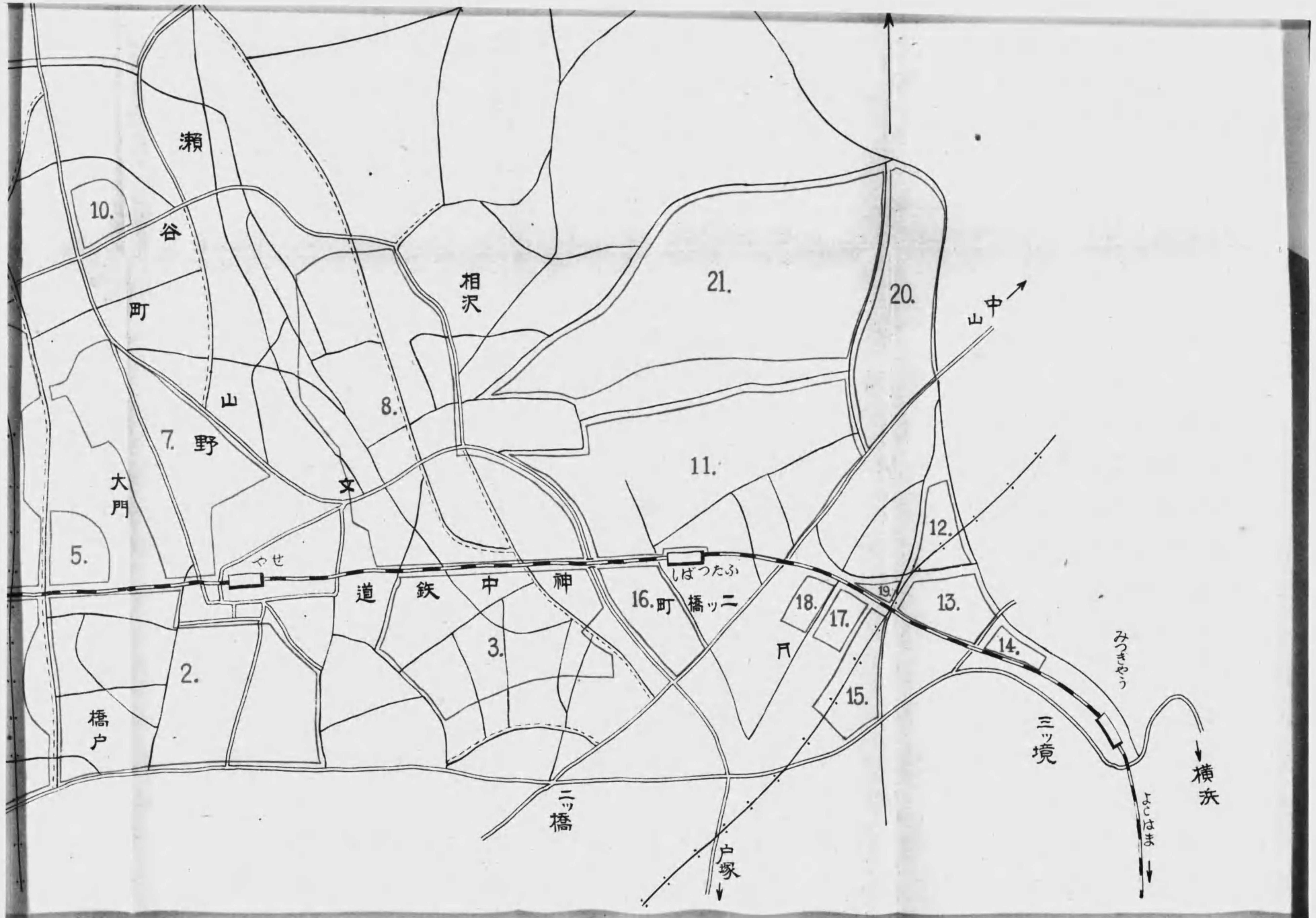
第七回 神中線沿線方面

F. 瀬谷地域



第七回 神中線沿線
F. 瀨谷地





瀬

10.

谷

町

相沢

21.

20.

山中 ↗

山

8.

7. 野

11.

大門

文

12.

5.

やせ

神中鉄道

しばつたふ

13.

16. 町 橋ッニ

18.

17.

19.

14.

2.

3.

15.

橋戸

みつきやう

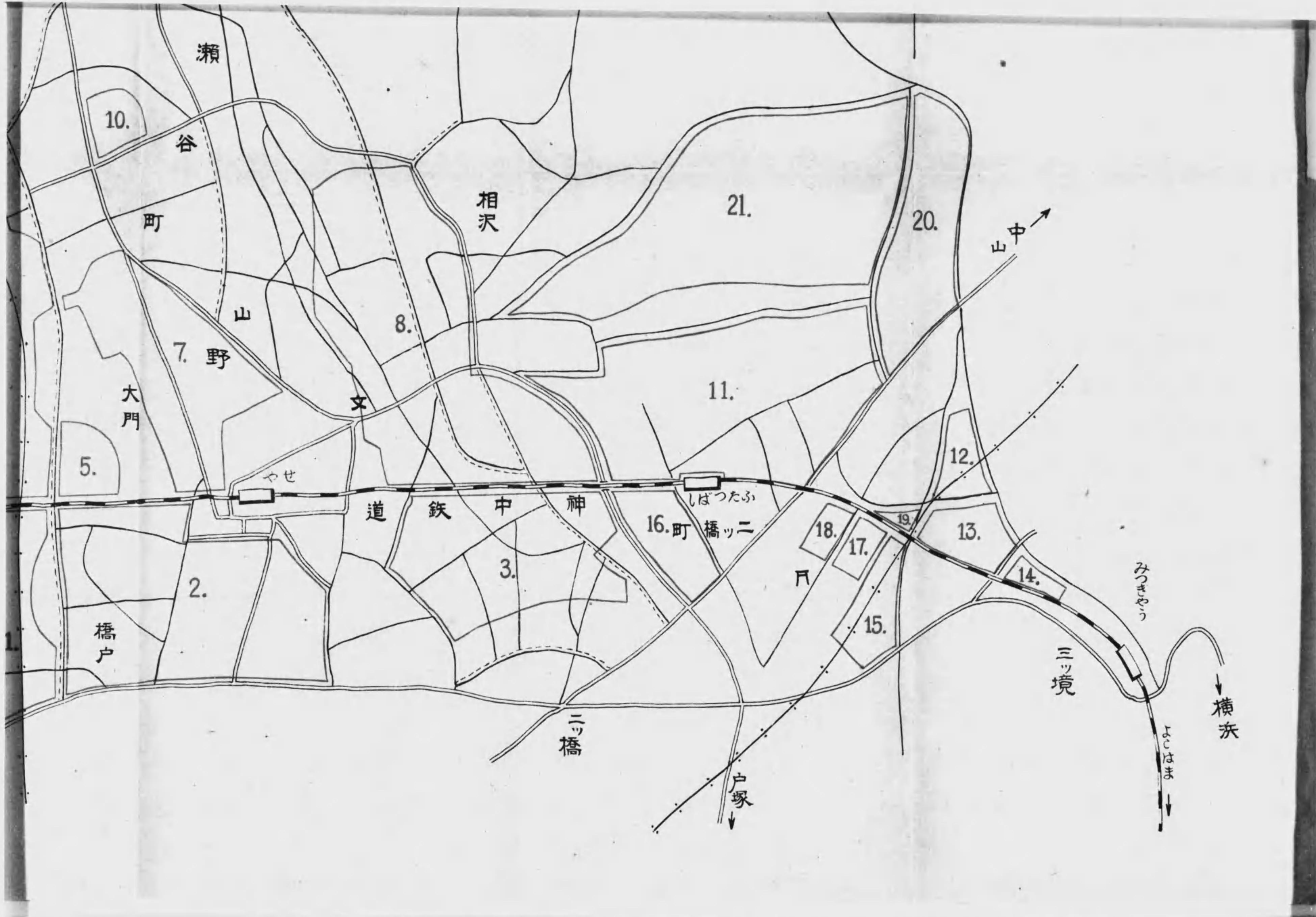
三ツ境

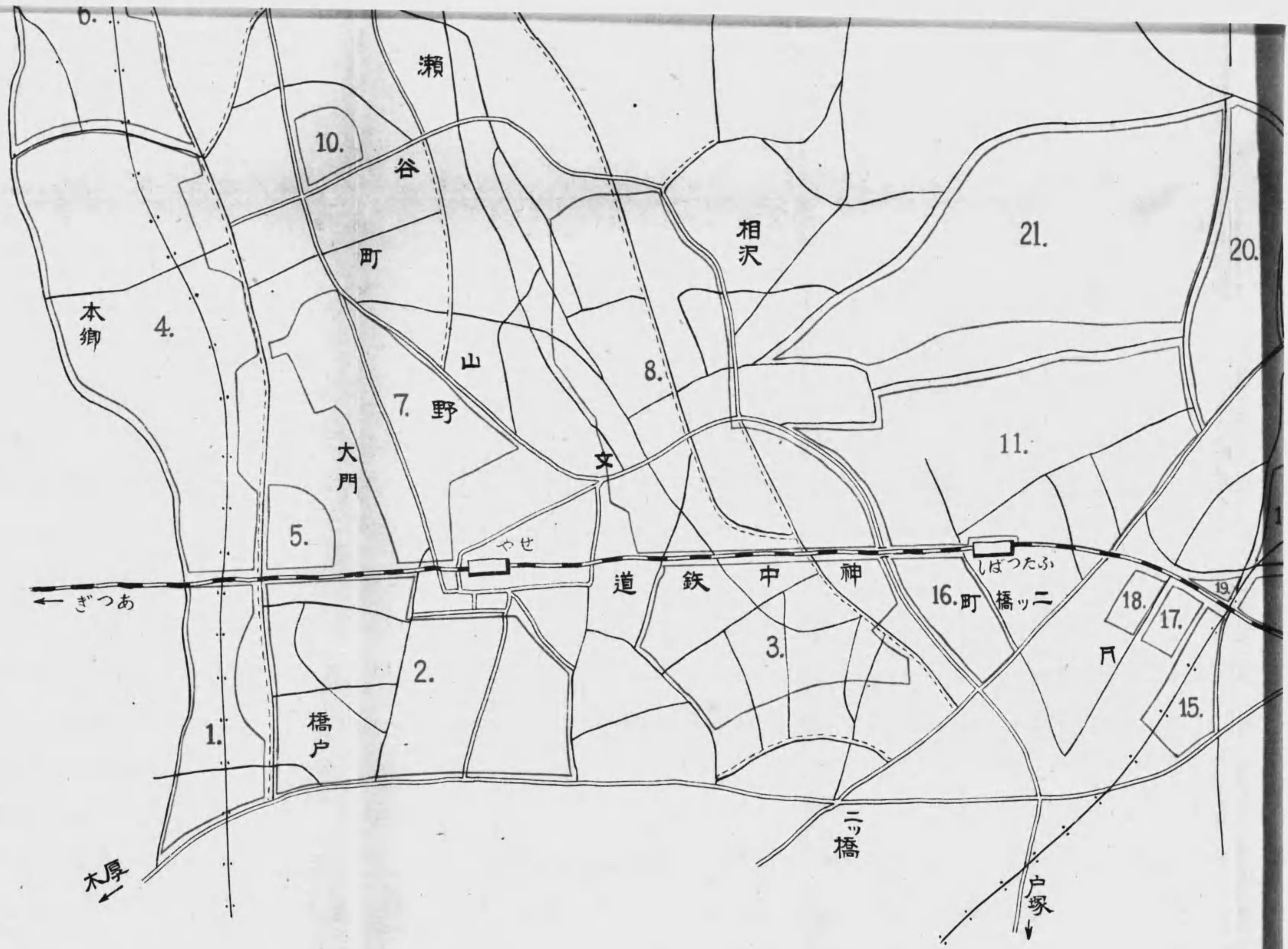
ニッ橋

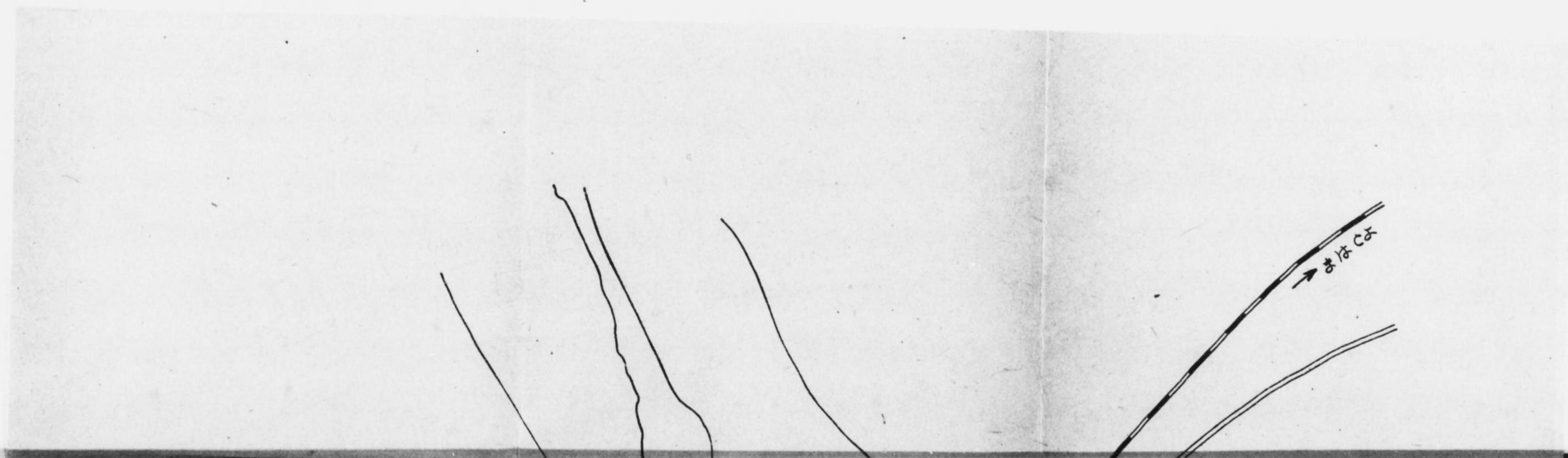
横沢 ↓

戸塚 ↓

よこはま ↓





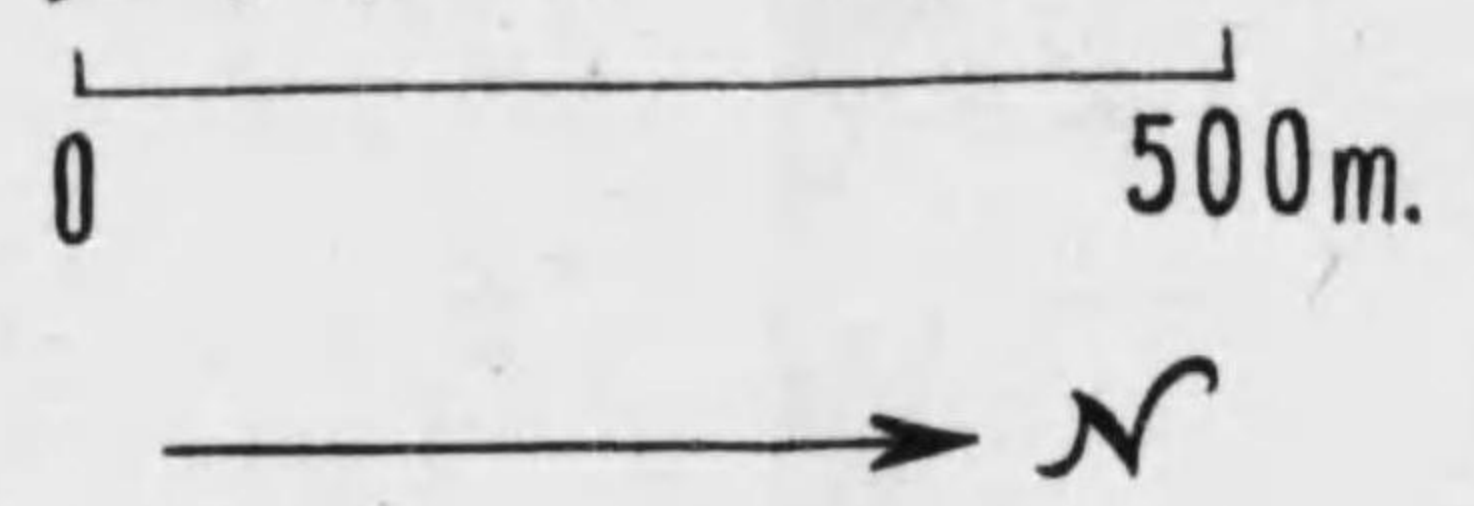


→ 表紙



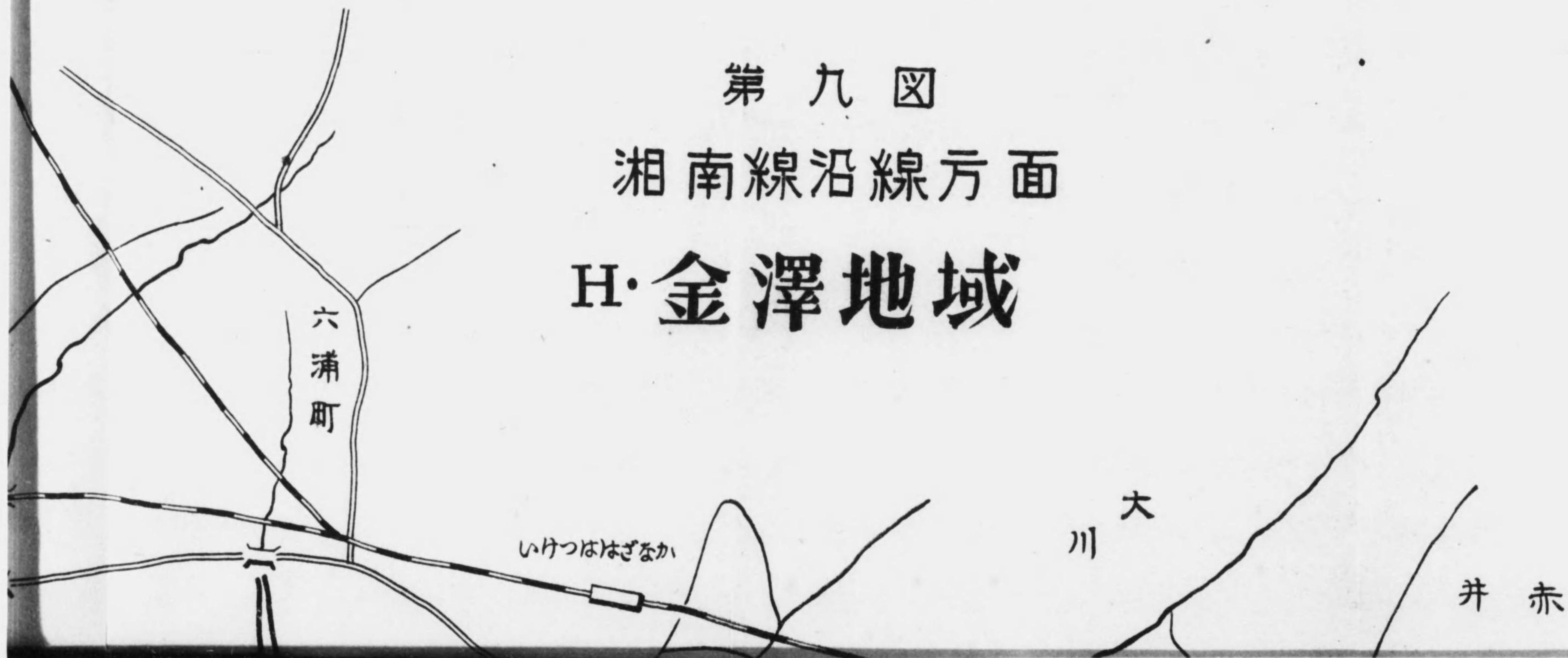
第八図

湘南線沿線方面
G・富岡地域



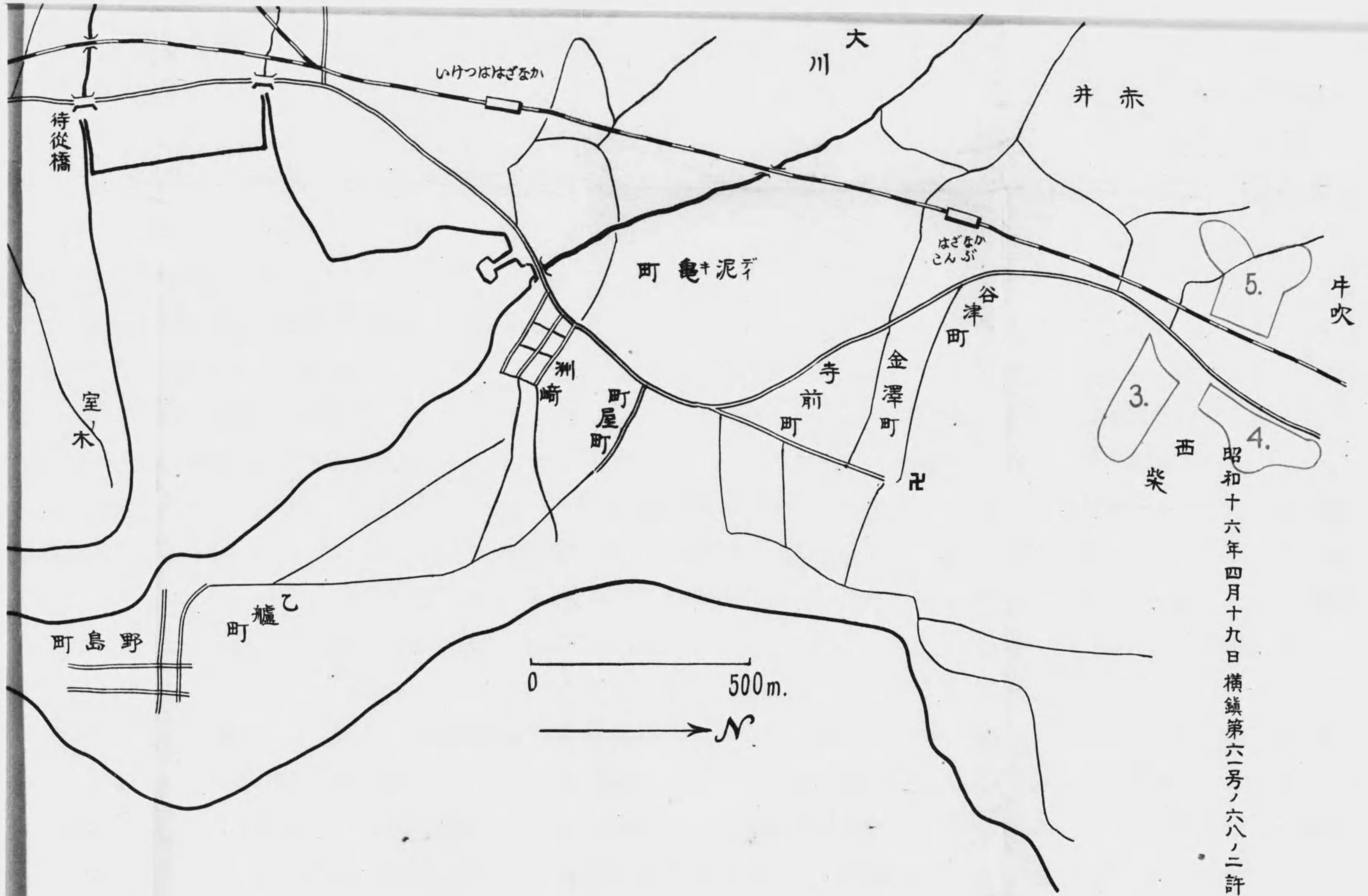
昭和十六年四月十九日横鎮第六号ノ六八ノ二許可濟

第九図
湘南線沿線方面
H・金澤地域



第九圖
湘南線沿線方面
H・金澤地域





いけつははざなか

大川

赤井

待從橋

室木

泥+亀町

はざなか
こんぶ

谷津町

牛吹

洲崎

町屋

寺前町

金澤町

3.

西柴

4.

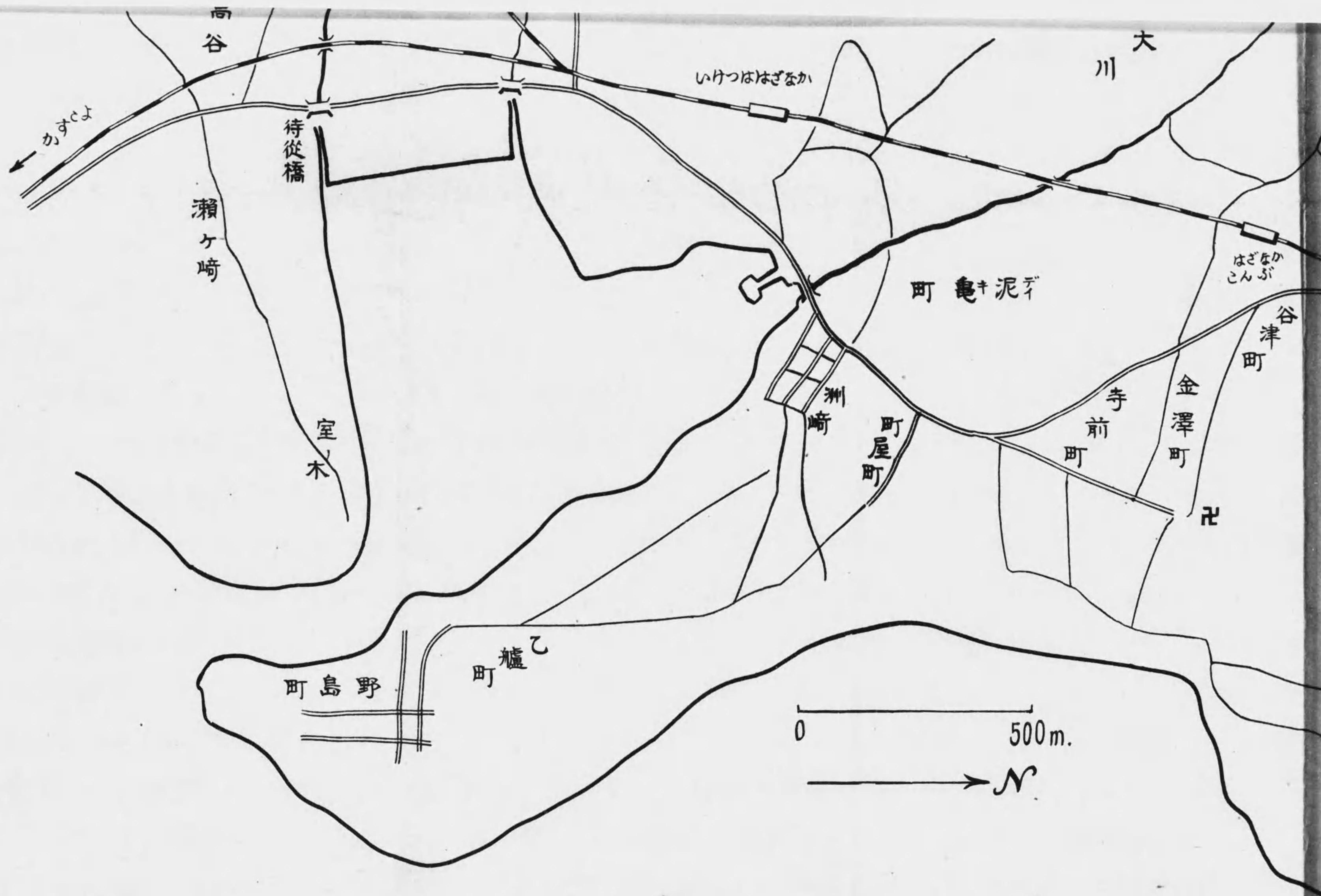
乙 壱町

野島町

0 500m.

→ N

昭和十六年四月十九日横鎮第六号ノ六八ノ二許可濟



高谷

大川

いけつははざなか

かすこよ

待従橋

瀬ヶ崎

室木

泥子+亀町

はざなか
こんぶ

谷津町

寺前町

金澤町

洲崎

町屋町

乙 壺町

野島町

0 500m.

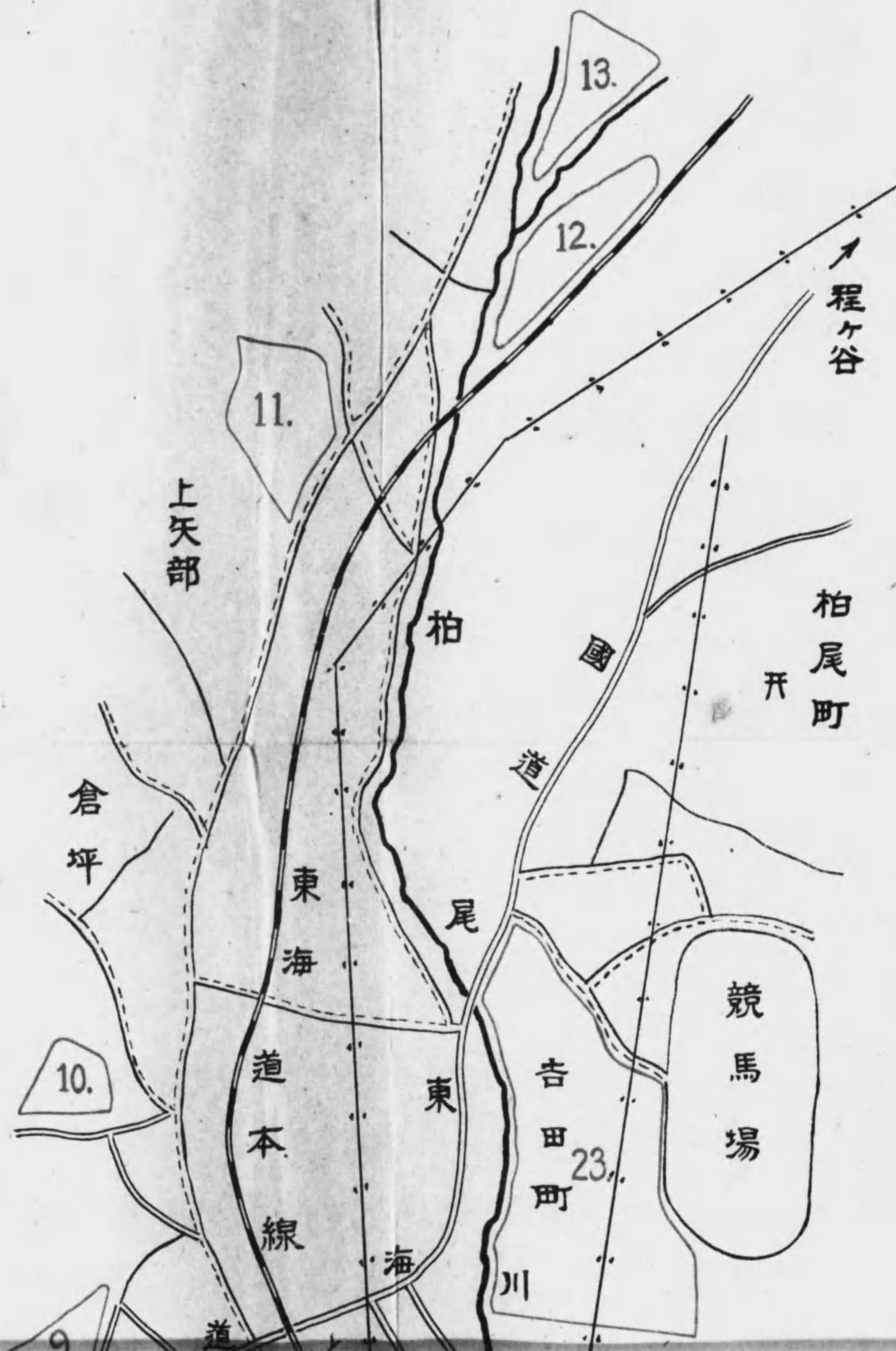
→ N

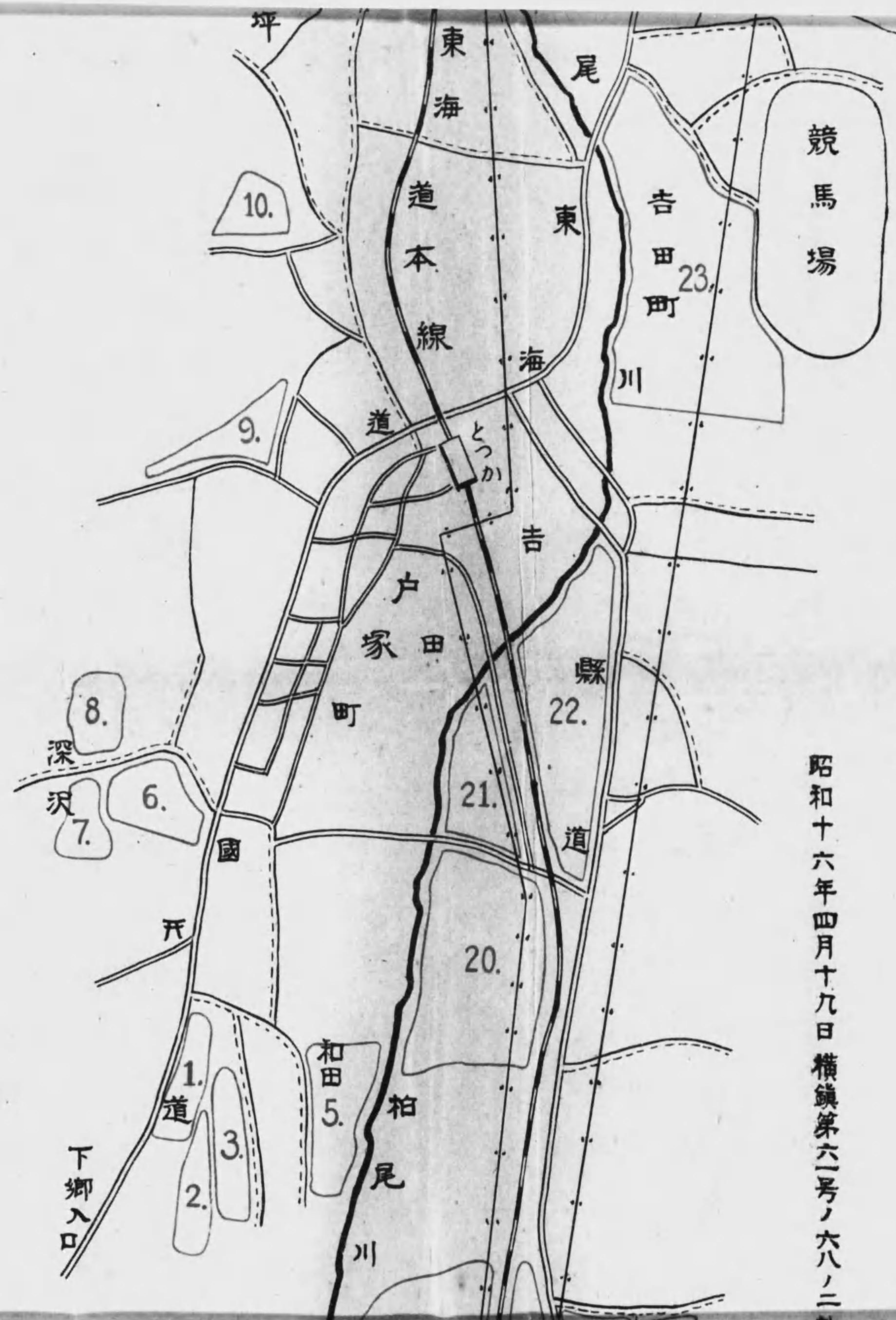
第十圖

東海道線沿線方面

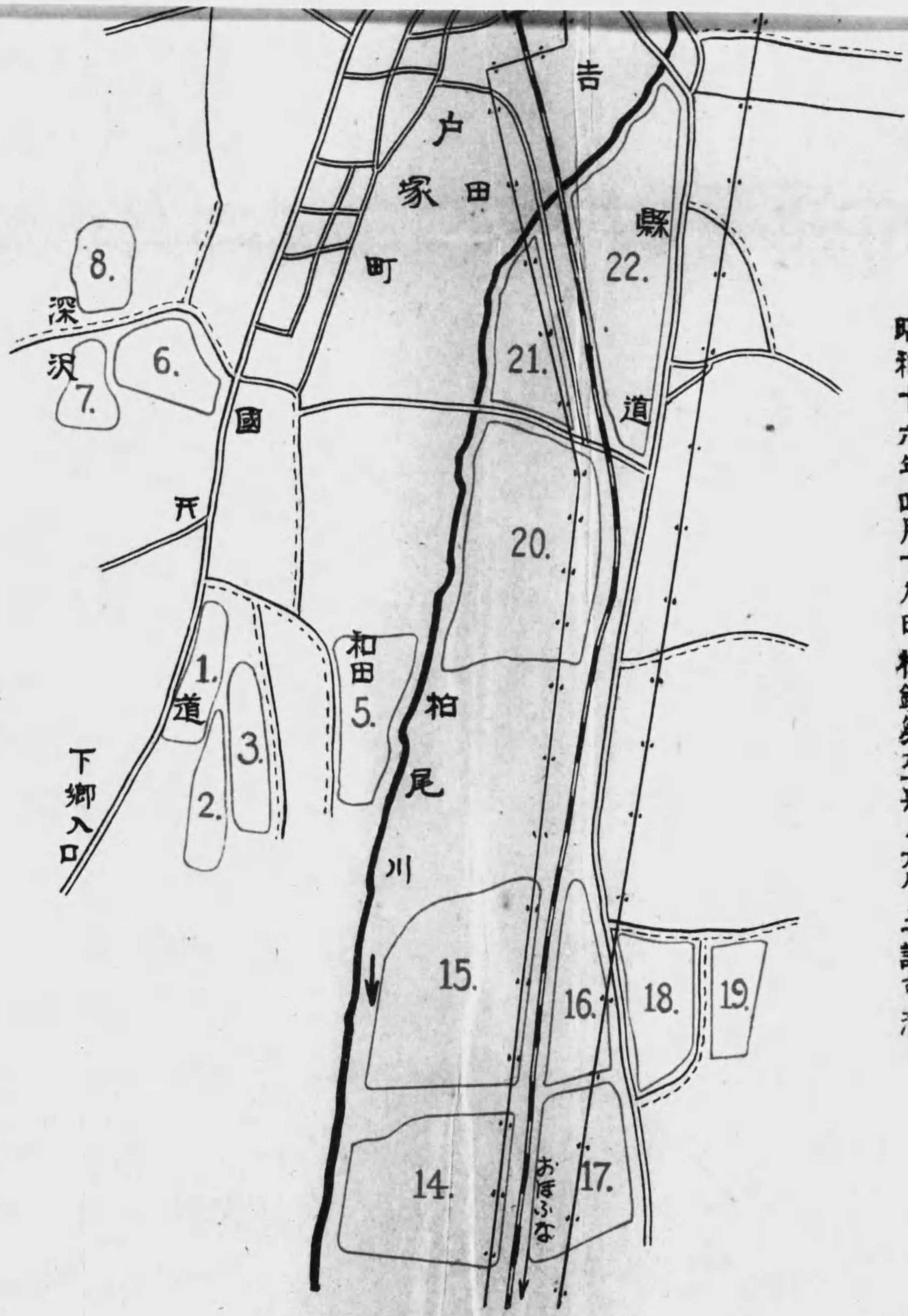
I. 白塚地域

0 500m.





昭和十六年四月十九日横鎮第六号ノ六八ノ二



昭和十六年四月十九日横鎮第六号ノ六八ノ二許可濟

415
173

昭和十六年五月一日印刷
昭和十六年五月五日發行
【非賣品】

編輯兼 發行所 橫濱市產業部 電話長崎町四一五〇三一 一五〇三五 一三三五	印刷人 橫濱市中區山手町二六 栗原佐輔	印刷所 橫濱市中區松影町一ノ五 太陽舎印刷所
--	---------------------------	------------------------------

—[寫 歷 代]—

終

